

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2026年6月25日
【事業年度】	第72期（自 2025年4月1日 至 2026年3月31日）
【会社名】	株式会社W D I
【英訳名】	WDI Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役 清水 謙
【本店の所在の場所】	東京都港区虎ノ門二丁目4番7号
【電話番号】	03(3404)3704（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部本部長 佐々木 智晴
【最寄りの連絡場所】	東京都港区虎ノ門二丁目4番7号
【電話番号】	03(3404)3704（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部本部長 佐々木 智晴
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第68期	第69期	第70期	第71期	第72期
決算年月	2022年3月	2023年3月	2024年3月	2025年3月	2026年3月
売上高 (千円)	19,182,604	26,174,187	30,950,001	31,952,794	34,518,241
経常利益又は経常損失( ) (千円)	658,877	912,377	1,594,520	700,969	1,385,979
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	725,811	940,527	1,053,651	930,006	235,882
包括利益 (千円)	897,296	1,277,170	1,457,280	868,369	44,419
純資産額 (千円)	5,249,030	6,265,996	7,375,087	8,109,802	7,936,831
総資産額 (千円)	16,977,175	21,119,817	23,048,879	22,549,794	23,985,723
1株当たり純資産額 (円)	658.89	748.67	885.65	1,027.54	1,048.11
1株当たり当期純利益 (円)	114.64	149.56	168.36	148.77	37.67
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	24.6	22.3	24.0	28.5	27.4
自己資本利益率 (%)	18.7	21.2	20.6	15.6	3.6
株価収益率 (倍)	15.28	14.57	20.58	20.53	78.69
営業活動によるキャッシュ・ フロー (千円)	1,344,285	1,680,000	1,785,929	331,049	1,722,042
投資活動によるキャッシュ・ フロー (千円)	4,301,205	1,096,313	1,361,859	249,560	2,108,037
財務活動によるキャッシュ・ フロー (千円)	1,593,973	1,380,720	116,145	667,603	764,762
現金及び現金同等物の 期末残高 (千円)	6,174,499	5,446,597	5,941,124	5,152,618	5,776,476
従業員数 (人)	1,576	1,870	2,146	2,266	2,386
(外、平均臨時雇用者数)	(1,859)	(1,950)	(2,389)	(2,427)	(2,438)

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 米国会計基準を採用している在外連結子会社において、第69期よりASC Topic842「リース」を適用しております。

## ( 2 ) 提出会社の経営指標等

回次	第68期	第69期	第70期	第71期	第72期
決算年月	2022年 3 月	2023年 3 月	2024年 3 月	2025年 3 月	2026年 3 月
売上高 (千円)	183,296	577,471	641,354	697,909	846,188
経常利益 (千円)	286,253	274,447	318,487	238,091	506,433
当期純利益 (千円)	147,734	162,652	211,504	51,024	72,188
資本金 (千円)	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
発行済株式総数 (千株)	6,331	6,331	6,331	6,331	6,331
純資産額 (千円)	3,807,199	3,799,972	3,830,554	3,930,714	3,914,925
総資産額 (千円)	7,117,354	6,932,683	8,259,085	8,637,048	9,758,231
1株当たり純資産額 (円)	601.34	604.98	613.56	628.45	624.84
1株当たり配当額 (円)	13.0	12.0	15.0	17.0	17.0
(うち1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益 (円)	23.33	25.86	33.80	8.16	11.53
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	53.5	54.8	46.4	45.5	40.1
自己資本利益率 (%)	3.9	4.3	5.5	1.3	1.8
株価収益率 (倍)	75.08	84.25	102.53	374.28	257.12
配当性向 (%)	55.7	46.4	44.4	208.3	147.5
従業員数 (人)	4	4	4	6	5
(外、平均臨時雇用者数)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
株主総利回り (%)	108.7	135.8	216.0	191.7	187.2
(比較指標：TOPIX)	(102.0)	(107.9)	(152.5)	(150.2)	(202.2)
最高株価 (円)	1,910	2,294	3,865	3,465	3,295
最低株価 (円)	1,501	1,700	2,124	2,670	2,705

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 株主総利回りの比較指標には、配当込みTOPIXの株価指数を使用しております。
3. 最高株価及び最低株価は、東京証券取引所スタンダード市場におけるものであります。
4. 第68期の1株当たり配当額には、外食事業参入50周年による記念配当5円を含んでおります。
5. 第72期の1株当たり配当額17円については、2026年6月26日開催予定の定時株主総会の決議事項となっております。

## 2【沿革】

年 月	事 項
1954年 4月	東京都中野区に当社の前身となる中央興行株式会社（資本金2,000千円）を設立、映画館経営を開始
1971年 7月	商号を株式会社日本ダブリュー・ディー・アイに変更
1972年 3月	本社を東京都港区六本木に移転
1972年 3月	東京都港区に「ケンタッキーフライドチキン 六本木店」の開店により外食事業に参入
1976年12月	東京都港区に会員制クラブレストラン「プレイボーイクラブトーキョー」を開店
1979年 8月	東京都千代田区に、国内においてバーベキューレストラン トニーローマの直営第1号店となる「トニーローマ 三番町店」開店
1979年 9月	海外での事業展開のため、WDI Hawaii, Inc.（資本金1,000千ドル、出資比率100%）を設立
1980年 8月	米国ハワイ州に、海外においてトニーローマの直営第1号店となる「トニーローマ Hawaii店」開店
1983年 6月	東京都港区に、エンターテイメントレストラン ハードロックカフェの直営第1号店となる「ハードロックカフェ 東京」を開店
1985年 7月	沖縄県那覇市に、国内においてトニーローマのフランチャイズ第1号店となる「トニーローマ 沖縄店」開店
1985年11月	東京都世田谷区に、国内においてカジュアルイタリアンレストラン カプリチオーザの直営第1号店となる「カプリチオーザ 下北沢店」開店
1986年 7月	山梨県甲府市に、国内においてカプリチオーザのフランチャイズ第1号店となる「カプリチオーザ 甲府岡島店」開店
1987年 3月	「プレイボーイクラブトーキョー」を「センチュリーコート」に改め開店
1991年 1月	米国グアム準州に、海外においてカプリチオーザの直営第1号店となる「カプリチオーザ Guam店」開店
1995年11月	東京都港区に、韓国焼肉レストラン 巨牛荘の直営第1号店となる「巨牛荘 六本木店」開店
1995年11月	東京都千代田区に、巨牛荘のフランチャイズ第1号店となる「巨牛荘 三番町店」開店
1997年 7月	東京都武蔵野市に、トスカーナレストラン「プリミ・パチ 吉祥寺店」開店
1998年 4月	商号を株式会社ダブリュー・ディー・アイ ホールディングに変更
2000年10月	WDI Hawaii, Inc.の商号をWDI International, Inc.に変更
2001年 3月	大阪市此花区に、国内においてシーフードレストラン パバ・ガンブ・シュリンプの直営第1号店となる「パバ・ガンブ・シュリンプ 大阪」開店
2002年 9月	東京都千代田区に、バー&ダイニング「ブリーズ・オブ・トウキョウ」を開店
2003年 4月	商号を株式会社WDIに変更
2003年12月	インドネシア共和国での事業展開のため、P.T. WDI Indonesia（資本金500千ドル、出資比率90%）を設立
2004年 3月	東京都港区に、シーフードレストラン グランド・セントラル・オイスター・バー&レストランの直営第1号店となる「ランド・セントラル・オイスター・バー&レストラン 品川店」開店
2004年 8月	インドネシア共和国バリ州に、海外においてパバ・ガンブ・シュリンプの直営第1号店となる「パバ・ガンブ・シュリンプ Bali」開店
2005年 4月	千葉市中央区に、石焼ハンバーグ&ステーキレストラン ストーンバーグの第1号店となる「ストーンバーグ アリオ蘇我店」開店
2005年10月	台湾台北市に、海外においてカプリチオーザのフランチャイズ第1号店となる「カプリチオーザ 台北復興店」開店
2006年 9月	川崎市幸区に、プレミアムピザ・ダイニング カリフォルニア・ピザ・キッチン of 川崎の直営第1号店となる「カリフォルニア・ピザ・キッチン 川崎店」開店
2006年12月	ジャスダック証券取引所に株式を上場
2007年 4月	米国ハワイ州において「ウルフギャング・ステーキハウス」のレストラン事業を行うため、W STEAK WAIKIKI, LLC（資本金200千ドル、出資比率50%）を設立
2007年10月	米国ハワイ州に、モダンイタリアンレストラン「Taormina」を開店
2008年 7月	「センチュリーコート」を港区六本木より千代田区丸の内・明治生命館に移転
2009年 2月	米国ハワイ州に、海外においてステーキレストラン ウルフギャング・ステーキハウスの直営第1号店となる「ウルフギャング・ステーキハウス Waikiki店」開店
2009年12月	会社分割により、当社の子会社として「株式会社WDI JAPAN」（資本金10,000千円、出資比率100%）を設立し、外食事業に関する権利義務を承継させることにより、当社を持株会社とする持株会社制へ移行

年 月	事 項
2010年 4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQに上場
2011年 4月	東京都中央区に、焼きスバゲティ専門店 ロメスパバルボアの第1号店となる「ロメスパバルボア 日本橋室町店」開店
2012年 4月	新東名高速道路のサービスエリア「NEOPASA浜松(上り線)」フードコート内に「はまきた食堂」「焼きスバ&カレー バルボア」「中華の鉄人」を開店
2012年 6月	横浜市中区に、カジュアルハワイアンレストラン エッグスンシングスの直営第1号店となる「エッグスンシングス 横浜山下公園店」開店
2012年11月	東京都新宿区に、アメリカンレストラン サラベスの直営第1号店となる「サラベス ルミネ新宿店」開店
2013年 7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に上場
2014年 1月	日本において「ウルフギャング・ステーキハウス」のレストラン事業を行うため、株式会社Wolfgang's Steakhouse JAPAN(資本金10,000千円、出資比率50%)を設立
2014年 2月	東京都港区に、国内においてウルフギャング・ステーキハウスの直営第1号店となる「ウルフギャング・ステーキハウス 六本木店」開店
2015年 3月	東京都新宿区に、肉つけうどん うつけの第1号店となる「うつけ 四谷三丁目店」開店
2016年 1月	米国ハワイ州において「TR Fire Grill」のレストラン事業を行うため、FG Restaurant, LLC(資本金3,000千米ドル、出資比率60%)を設立
2016年 3月	米国ニューヨーク州において「ティム・ホー・ワン」のレストラン事業を行うため、WDI New York, LLC(資本金100千米ドル、出資比率100%)を設立
2016年 5月	台湾台北市に、サラベスのフランチャイズ第1号店となる「サラベス SOGO Dun Hua店」開店
2016年12月	米国ハワイ州に、バーベキューレストラン「TR Fire Grill Waikiki店」開店
2016年12月	米国ニューヨーク州に、海外において点心専門店 ティム・ホー・ワンの直営第1号店となる「ティム・ホー・ワン New York店」開店
2017年11月	米国ハワイ州に、イタリアンレストラン Appetitoの第1号店となる「Appetito Waikiki店」開店
2018年 3月	東京都千代田区に、ガストロテック ブヴェットの直営第1号店となる「ブヴェット 日比谷店」開店
2018年 4月	東京都千代田区に、国内においてティム・ホー・ワンの直営第1号店となる「ティム・ホー・ワン 日比谷店」開店
2019年 1月	英国での事業展開のため、WDI UK Ltd.(資本金2,000千英ポンド、出資比率100%)を設立
2019年 3月	日本において「フージンツリー」のレストラン事業を行うため、株式会社FUJIN TREE JAPAN(資本金45,000千円、出資比率50%)を設立
2019年 5月	日本においてケータリングサービス等の事業を行うため、株式会社WDI Entertainment(資本金5,000千円、出資比率80%)を設立
2019年 9月	東京都中央区に、台湾料理 フージンツリーの直営第1号店となる「フージンツリー コレド室町テラス店」開店
2021年 7月	米国テキサス州において「ティム・ホー・ワン」のレストラン事業を行うため、WDI-NQ, LLC(資本金1,664千米ドル、出資比率51%)を設立
2021年 8月	株式会社ちんやより老舗すき焼き店「ちんや」のブランドを承継
2022年 3月	東京都台東区に、すき焼「ちんや 浅草本店」開店
2022年 4月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより、東京証券取引所のJASDAQ(スタンダード)からスタンダード市場に移行
2022年11月	日本において「ティム・ホー・ワン」のレストラン事業を行うため、株式会社WDI Dim Sum Japan(資本金15,000千円、出資比率100%)を設立
2026年 2月	本社を東京都港区虎ノ門に移転

### 3【事業の内容】

当社グループは、当社、子会社16社で構成されており、2026年3月31日現在、157店舗を展開しております。（但し、海外子会社が運営または管理する店舗については2025年12月31日現在の数字であります。）

セグメント別の店舗数は、日本140店舗、北米9店舗、ミクロネシア2店舗、アジア6店舗となっております。

当社グループは、様々な業態のレストランを運営しており、国内に83店舗、海外に14店舗の直営展開を行っております。カプリチオーザ、トニーローマ及びサラベスについては、国内に57店舗、海外に3店舗のフランチャイズ展開を行っております。

今後も全業態について立地条件、地域等を検討しながら、バランスよく出店していく方針であります。

セグメント別出店表は以下のとおりであります。

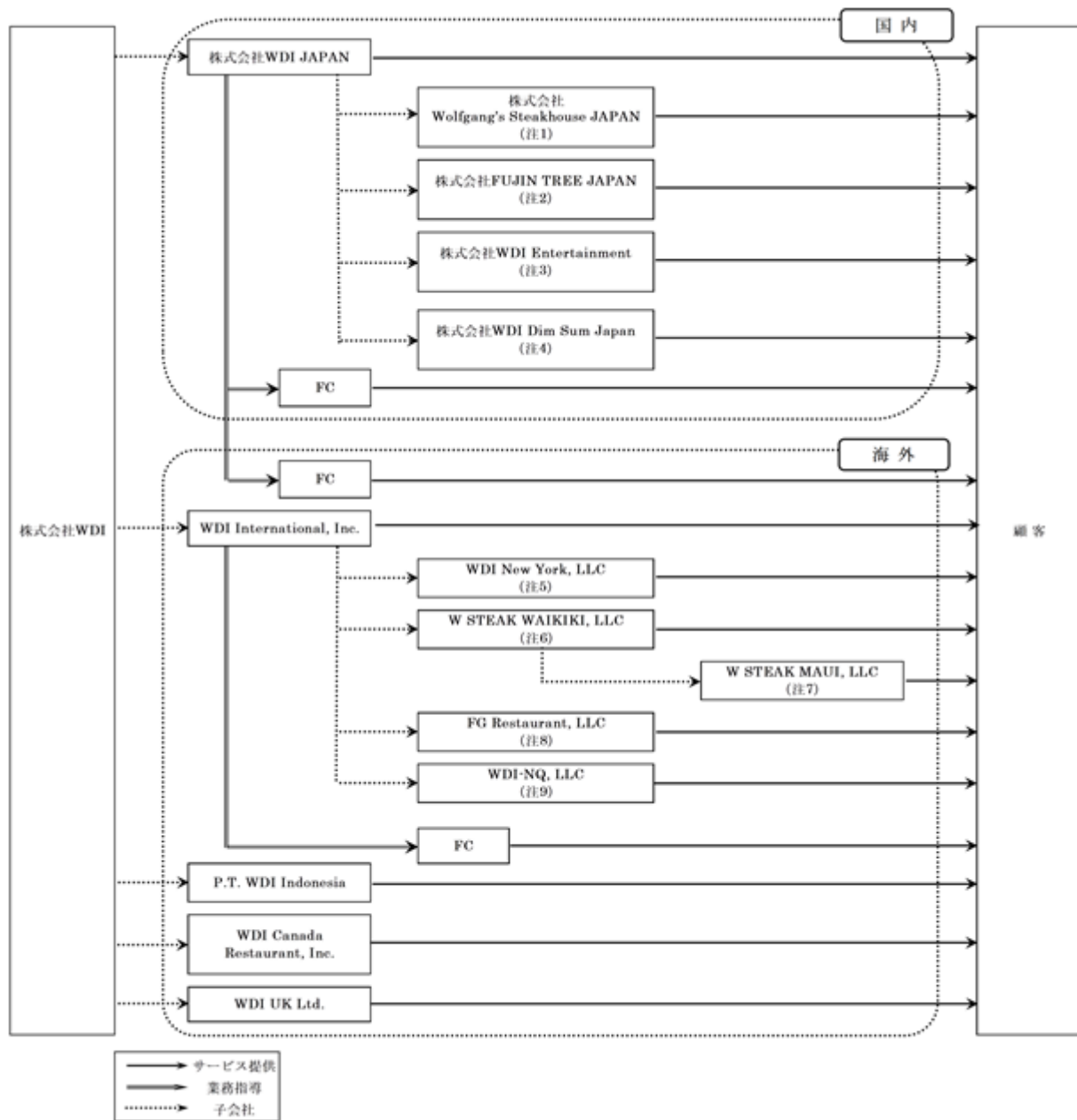
報告セグメントの名称	直営	フランチャイズ	合計
日本	83	57	140
北米	9	-	9
ミクロネシア	2	-	2
アジア	3	3	6
合 計	97	60	157

業態別出店表は以下のとおりであります。

店 舗 名	店 舗 形 態	国 内			海 外			合計
		直営	フランチャイズ	小計	直営	フランチャイズ	小計	
カプリチオーザ	カジュアルイタリアンレストラン	36	54	90	2	1	3	93
トニーローマ	バーベキューレストラン	2	3	5	1	-	1	6
ハードロックカフェ	エンターテイメントレストラン	6	-	6	-	-	-	6
ババ・ガンブ・シュリンプ	シーフードレストラン	3	-	3	1	-	1	4
カリフォルニア・ピザ・キッチン	プレミアムピザ・ダイニング	1	-	1	-	-	-	1
エッグスンシングス	カジュアルハワイアンレストラン	5	-	5	-	-	-	5
センチュリーコート	会員制クラブレストラン	1	-	1	-	-	-	1
プリミ・パチ	トスカーナレストラン	1	-	1	-	-	-	1
ブリーズ・オブ・トウキョウ	バー&ダイニング	1	-	1	-	-	-	1
グランド・セントラル・オイスター・バー&レストラン	シーフードレストラン	1	-	1	-	-	-	1
サラベス	アメリカンレストラン	6	-	6	-	2	2	8
ブヴェット	ガストロテック	1	-	1	-	-	-	1
巨牛荘	韓国焼肉レストラン	1	-	1	-	-	-	1
ストーンバーグ	石焼ハンバーグ&ステーキレストラン	1	-	1	-	-	-	1
ロメスパバルボア	焼きスパゲティ専門店	2	-	2	-	-	-	2
サービスエリア	フードコート	1	-	1	-	-	-	1
うつけ	肉つけうどん	1	-	1	-	-	-	1
ちんや	すき焼き	1	-	1	-	-	-	1
ティム・ホー・ワン	点心専門店	4	-	4	3	-	3	7
ウルフギャング・ステーキハウス	ステーキレストラン	6	-	6	2	-	2	8
フージンツリー	台湾料理	2	-	2	-	-	-	2

店舗名	店舗形態	国内			海外			合計
		直営	フランチャイズ	小計	直営	フランチャイズ	小計	
Taormina	モダンイタリアンレストラン	-	-	-	1	-	1	1
Fire Grill	バーベキューレストラン	-	-	-	1	-	1	1
Appetito	イタリアンレストラン	-	-	-	3	-	3	3
合計		83	57	140	14	3	17	157

[ 事業系統図 ] ( 2026年 3月31日現在 )



- (注) 1. 日本において「ウルフギャング・ステーキハウス」のレストラン事業を行うため設立  
2. 日本において「フージンツリー」のレストラン事業を行うため設立  
3. 日本においてケータリングサービス事業を行うため設立  
4. 日本において「ティム・ホー・ワン」の事業展開を行うため設立  
5. 米国ニューヨーク州において「ティム・ホー・ワン」のレストラン事業を行うため設立  
6. 米国ハワイ州において「ウルフギャング・ステーキハウス」のレストラン事業を行うため設立  
7. 米国ハワイ州マウイ島において「ウルフギャング・ステーキハウス」のレストラン事業を行うため設立  
8. 米国ハワイ州において「Fire Grill」のレストラン事業を行うため設立  
9. 米国テキサス州において「ティム・ホー・ワン」のレストラン事業を行うため設立  
10. 各子会社の運営または管理するセグメントは以下のとおりであります
- |                                 |                   |
|---------------------------------|-------------------|
| 株式会社WDI JAPAN                   | ・・・・・・・・日本        |
| WDI International, Inc.         | ・・・・・・・・北米、ミクロネシア |
| P.T. WDI Indonesia              | ・・・・・・・・アジア       |
| WDI Canada Restaurant, Inc.     | ・・・・・・・・北米        |
| WDI UK Ltd.                     | ・・・・・・・・欧州        |
| 株式会社Wolfgang's Steakhouse JAPAN | ・・・日本             |
| W STEAK WAIKIKI, LLC            | ・・・・・・・・北米        |

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	報告セグメント の名称	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
<b>(連結子会社)</b>					
株式会社WDI JAPAN (注) 2・5	東京都 港区	10,000千円	日本	100.00	役員の兼任あり 当社が経営指導、重畳的 債務引受及び連帯保証等 を行っております。
WDI International, Inc. (注) 2・4・5	米国 カリフォルニア州	US\$12,000,000	北米 ミクロネシア	100.00	役員の兼任あり 当社が経営指導等を行っ ております。
P.T. WDI Indonesia (注) 2・3	インドネシア共和 国 バリ州	IDR27,993,900,000	アジア	100.00 (3.03)	役員の兼任あり 当社が経営指導等を行っ ております。
WDI UK Ltd. (注) 2	英国 ロンドン	GBP4,500,000	欧州	100.00	役員の兼任あり 当社が経営指導等を行っ ております。
株式会社Wolfgang's Steakhouse JAPAN (注) 2・3・5	東京都 港区	45,000千円	日本	50.00 (50.00)	役員の兼任あり
その他11社					
<b>(持分法適用会社)</b>					
株式会社W Teppan Ginza 1chome (注) 3	東京都 港区	20,000千円	日本	50.00 (50.00)	役員の兼任あり
その他2社					

- (注) 1. 上記の関係会社は、いずれも有価証券届出書または有価証券報告書を提出しておりません。  
2. 特定子会社に該当しております。  
3. 議決権の所有割合の( )内は、間接所有割合で内数であります。  
4. 債務超過会社で債務超過額は、2025年12月時点で2,454,881千円となっております。  
5. 売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)が連結売上高に占める割合の10%を超えております。

主要な損益情報等

(単位：千円)

	売上高	経常利益 (は損失)	当期純利益	純資産額	総資産額
株式会社WDI JAPAN	18,208,329	876,819	729,691	1,639,832	7,701,196
WDI International, Inc.	7,831,559	609,709	745,051	2,454,881	5,098,335
株式会社Wolfgang's Steakhouse JAPAN	7,236,941	1,214,890	796,295	3,965,551	5,711,289

(注) WDI International, Inc.の主要な損益情報等については、子会社であるW STEAK WAIKIKI, LLC、WDI New York, LLC、FG Restaurant, LLC及びWDI-NQ, LLCの2025年12月31日現在の財務諸表を連結した金額となっております。

## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社グループの経営方針、経営環境及び対処すべき課題等は、以下のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社グループは「ダイニングカルチャーで世界をつなぐ」を企業理念に、世界の様々な国と地域で育まれた食文化を担い、伝道師の役割を果たすことを使命としております。

この企業理念を実現するために、「ホスピタリティ」「本物志向」「チャレンジスピリッツ」「グローバル」をキーワードとして、国内のみならず、海外においてもレストラン事業を行っており、安心・安全を基盤とした個性ある食事の楽しみ方を提供し続けることにより、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

#### (2) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

今後の外食産業を取り巻く経済環境は、地政学的リスクの高まりや資源・エネルギー価格高騰に加え、国際物流への影響から、景気の下振れリスクが懸念されます。また、国内においては、雇用・所得環境の改善により、緩やかな回復基調で推移してまいりました。一方で、少子高齢化に伴う労働力不足に加え、地政学的リスクによる原材料及びエネルギー価格高騰の長期化など、依然として課題は少なくありません。

当社グループといたしましては2025年度より「信頼されるブランド創り」をテーマとして掲げ、5つのフィロソフィーである「ホスピタリティ」「本物志向」「チャレンジスピリッツ」「グローバル」「サステナビリティ」を念頭に置きながら、様々な施策に取り組んでおります。

なお、具体的な施策は以下のとおりです。

##### DE&I (ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン)の推進

「信頼されるブランド創り」の実現には、DE&Iを基盤とした信頼されるチーム創りが必要と考えております。スタッフ一人ひとりの多様性を尊重し、お互いを理解することで誰もが安心して働けるインクルーシブな職場環境の実現を進めてまいります。また、お客様だけでなく一緒に働く仲間へのホスピタリティを大切にして、継続的により良い職場環境の実現を目指してまいります。

##### 「Brand Lab Project」の取り組み

約15年続いた「地域一番店プロジェクト」を再構築し、2025年度より新たに「Brand Lab Project」をスタートしました。本プロジェクトでは“ブランド”と改めて向き合い、理解を深めることで「信頼されるブランド創り」を目指してまいります。

本プロジェクトにおいて、2025年度はブランドのコンセプト及びストーリーの理解を深めることに注力してまいりました。2026年度は、それを発信へとつなげ、スタッフ一人ひとりがブランドの伝道師となって料理、サービス、ホスピタリティを通じて、ブランドの魅力をお客様に伝えてまいります。

##### Q.S.C.A (Quality・Service・Cleanliness・Atmosphere)の向上

当社グループは、Q(クオリティ=品質)、S(サービス)、C(クレンリネス=清潔)に加え、A(アトモスフィア=雰囲気)を重視し、日々改善に取り組んでおります。信頼されるブランド価値の向上に向けて、WDIの強みであるマルチブランドそれぞれの個性をさらに磨き上げ、Q.S.C.Aの質を一層高めてまいります。これにより、差別化を図り、WDIらしい独自性の高いブランドづくりを確立してまいります。

##### サステナビリティ経営の取り組み

2026年度の当社グループのサステナビリティ経営としては、引き続き、「環境」「食材」「人財」の大きな3つのテーマについて、アクションを進めてまいります。

「環境」においては、2025年度に6ブランド9店舗がエコマーク認定を取得しました。また、エネルギー(水光熱)についても、お客様1名あたりの使用量を前年より引き下げる取り組みを進めてまいります。「食材」においては、サステナブル食材・飲料の活用及び食品ロス問題への取り組みを進めてまいります。「人財」においては、Great Place To Work Institute Japanが実施する「働きがい認定企業」に認定されました。引き続き、働く環境の整備を進め、定着率向上を目指した取り組みを進めてまいります。

## 2【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループのサステナビリティに関する考え方及び取組みは、次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) サステナビリティ

#### ガバナンス

当社グループは取締役会による監督のもと、サステナビリティに関わる取組みの実施機関として、「サステナビリティ経営委員会」を設置しています。同委員会ではサステナビリティに係る全社方針や目標、施策の策定、サステナビリティ推進体制の構築や整備などを継続的に実施しています。

また、同委員会にて当社グループが取り組むべきと判断した「環境」「食材」「人財」の3つのテーマについては「分科会」を設置しています。各分科会ではテーマごとに目標や施策の策定など定期的の実施しております。

サステナビリティ経営委員会の活動については、適宜、取締役会へ報告を行っております。

#### リスク管理

国内外に事業拠点をもち、店舗を展開している当社グループにおいて、世界人口の増加、気候変動の進行、資源枯渇などの地球規模での構造的な変化による中長期的な経済活動への影響は事業継続に関わるリスクであると認識しております。

サステナビリティに関するリスク及び機会の把握・整理・優先順位付け等については、「環境」「食材」「人財」の各分科会で取りまとめるうえ、サステナビリティ経営委員会において評価・特定しております。

評価・特定したリスク及び機会について、サステナビリティ経営委員会及び各分科会で協議を行い、優先的に対応すべき事項や対応方針について経営陣に対して提言しております。

また、各分科会からサステナビリティ経営委員会への定期的な報告のなかで、対応状況についてのモニタリングを実施しております。

### (2) 人的資本

当社グループは、「ダイニングカルチャーで世界をつなぐ」を企業理念に、世界の様々な国と地域でブランドを発掘、展開しております。

海外での事業展開にあたっては、国内から各地へ出向している社員もおりますが、多くのスタッフは現地で採用しており、当社グループでは多様性に富んだ人財が働いております。海外だけではなく国内においても同様に、新卒採用や中途採用に関係なく、様々な国や地域で育った人財の採用を進めております。

人財の多様性は、様々な文化や多様性に富んだ価値観や考え方を取り入れることであり、これまでなかったアイデアの創出や、企業価値の向上に寄与するものと考えております。

国内における多様性を客観的に示すための指標として、正社員に占める女性社員比率を、現在の29.2%から2027年度までに30%に引き上げることを一つの目標として定めております。30%という数字は「クリティカル・マス」と呼ばれる比率で、マイノリティがマイノリティではなくなる必要最低限の割合とされております。

女性社員比率を向上させるためには、産休・育休制度や時短勤務などを制度として導入するだけでなく、活用されることが当たり前となるよう、組織に浸透させていくことが重要と考えております。柔軟な働き方が浸透することは、女性社員だけではなく、会社全体の働きやすさを醸成し、安定した人財の好循環を促すものと考えております。

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
女性社員比率	27.2%	23.9%	22.9%	26.6%	29.2%

日本国内では、人口減少に歯止めがかからない状況にあり、それに伴い働き手も減少傾向にあります。人手不足への対応方法の一つが、海外からの働く仲間を募ることにあると考えております。

2025年度の国内の全従業員数に占める、海外からの働く仲間の比率は15.8%となっております。簡単なマニュアルの多言語化を進めるとともに、一緒に働く仲間へのホスピタリティを発揮することで、より良い職場環境を作り、結果としてその比率を高められるようにと考え、実践しております。

### 3【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクは、以下のとおりであります。

当社グループはこれらのリスクに対処するため、必要なリスク管理体制及び管理手法を整備し、リスクの監視及び管理に当たっておりますが、これら全てのリスクを完全に回避するものではありません。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 出店に係るリスクについて

当社グループは、国内外の主要都市及び観光地を中心にショッピングモール、駅ビルその他商業施設等の飲食店の需要が多い場所を中心に店舗展開を行っております。新規出店に際しては、商圈調査などに基づき投資採算について十分な検討を行い、家賃や差入保証金等の契約条件、予想客数、競合店舗を勘案した上で一定の条件を満たした物件のみを出店対象としております。

このため、出店条件を満たす物件がない場合、出店計画を変更する場合があります。その際は当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。なお、出店に際しては、人件費や募集費等の費用が売上に先行して発生するため、複数の出店が同時期に重なる場合には、売上を上回る費用が計上される可能性があります。また、当社グループは、店舗ごとの収益性、キャッシュ・フローを重視しており、事業環境の変化等により収支が悪化して、将来における回復が見込まれない不採算店舗については、閉店を検討することを方針としております。このような不採算店舗が増加した場合は、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (2) フランチャイザーとの契約更新に係るリスクについて

当社グループは、国内外優良業態の発掘と独自の業態の開発を主な経営戦略としております。自社で開発した業態以外のブランドをフランチャイジーとして展開する場合、その条件を取り決め、契約を締結しております。各フランチャイジーとは友好的な関係を築き、良いビジネスパートナーとしての努力を行っておりますが、契約期間満了時に万一、契約が更新されない場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (3) フランチャイズ事業に係るリスクについて

当社グループは、日本及び米国・アジア諸国を中心に飲食店を運営しております。2026年3月期末日において国内に83の直営店舗と、米国・アジア諸国を中心に海外に14の直営店舗による展開を行っております。また、カプリチョーザ、トニーローマ、及びサラベスについてはフランチャイズ事業を行っており、国内で57店舗、台湾及びベトナムで3店舗の展開を行っております。

フランチャイズ展開を行うに当たり、当社グループは、フランチャイジーとの間で下記のような加盟契約を結んでおります。但し、サラベスにつきましては、国内でのフランチャイズ展開を検討しておりませんので、記載から除いております。

##### 加盟前提条件

4業態全てに対して、基本的に法人組織である事が前提となっております。そして、複数店展開を視野に入れた長期ビジョンに基づき、その実現に情熱を注げる方を求めています。

##### 加盟に際して必要とされる契約金、その他加盟契約要旨

	カプリチョーザ	トニーローマ
フランチャイズ 加盟金	300万円 2店舗目以降は200万円	500万円 1店舗ごとに必要
店舗設計料	100万円 2店舗目は50万円、3店舗目以降は免除 店舗の基本レイアウト図の制作と厨房設計料	100万円 店舗の基本レイアウト図の制作と厨房設計料
ロイヤリティ	売上高の6% 但し、1オーナー5店舗以上9店舗以下の 開店店舗に対し5%、前記同様に10店舗以上 に対し4% (閉店ほか契約解除により、上記条件以下の 店舗数となった場合は条件解除とする)	売上高の6%
契約期間	5年	10年
更新期間	5年 期間満了の6ヶ月前までに双方に異存がなければ再締結	10年 期間満了の6ヶ月前までに双方に異存がなければ再締結

	巨牛荘	ストーンバーグ
フランチャイズ 加盟金	500万円 1店舗ごとに必要	300万円 2店舗目以降はなし
店舗設計料	100万円 店舗の基本レイアウト図の制作と厨房設計料	100万円 店舗の基本レイアウト図の制作と厨房設計料
ロイヤリティ	売上高の5%	売上高の4%
契約期間	5年	5年
更新期間	5年 期間満了の6ヶ月前までに双方に異存がなければ再締結	5年 期間満了の6ヶ月前までに双方に異存がなければ再締結

#### フランチャイズ展開に係るリスクについて

フランチャイズ展開では、一般的に店舗運営の進め方や実際のオペレーション等の方法を提供し、それによってFC加盟社は統一的な店舗運営を行っております。フランチャイズ展開は、FC加盟社と当社グループが対等なパートナーシップと信頼関係に基づき、それぞれの役割を担う共同事業であるため、FC加盟社もしくは当社グループのいずれかがその役割を果たせないことにより、ブランドイメージが毀損されたり、多くのFC加盟社との間で契約が維持できなくなった場合は、当社グループ全体に影響を及ぼす可能性があります。

フランチャイズ展開では通常、収益性、簡便なオペレーションなどのメリットを説明してFC加盟社の募集を行っております。当社グループは、FC加盟社に対してはスーパーバイザーによる巡回や集合研修の開催等、十分な営業支援を行っておりますが、仮にFC加盟社がこのようなメリットを享受できていないと判断した場合、トラブルまたは訴訟に発展する場合があります。

このような場合、FC加盟社との契約を解除したり新たな加盟社を募集する必要性が生じるケースもあり、その際に当社グループが何らかの負担を求められることにより、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。なお、当社グループがFC加盟社から収受するフランチャイズ加盟金及び店舗設計料は、加盟契約において理由の如何（店舗の開店または営業の開始の有無など）を問わず一切返還しないものと定められておりますが、契約解除の理由などを考慮して当社グループがFC加盟社に対してフランチャイズ加盟金及び店舗設計料を返還する可能性があります。そのような場合、当社グループの業績と財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループにおいては、設立以来、現在に至るまでFC加盟社からそのような提訴をされたことはありませんが、FC加盟社とのトラブルの状況によっては、当社グループの業績及び今後の事業展開に影響を及ぼす可能性は否定できません。

#### 加盟契約締結後の出店状況について

当社グループは、前述のとおり日本・海外において100店を超える店舗を展開するグローバル企業へ成長しておりますが、その約4割の店舗はFC加盟社により運営されております。

このため、FC加盟社が採算悪化に陥った場合や、FC加盟社または加盟社が運営する店舗において不祥事その他の事由が発生した場合、当該FC加盟社による出店が遅延・停止したり売上高が減少したりすることにより、当社グループが受け取るべきロイヤリティが減少するなどし、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

#### フランチャイズに関する法的規制などについて

当社グループは、フランチャイズの運営に関して中小小売商業振興法や私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律等の規制を受けております。これらの法律は、当社グループに対して加盟契約締結前の情報開示等を定めておりますので、法的規制などの改廃、または新たな法律などの制定により、当初の出店計画の達成が困難となった場合や新たな対応コストが発生した場合は、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 事業提携の成否に係るリスクについて

当社グループは、直営及びフランチャイズでの展開以外にも、他社との業務提携や合併会社の設立を通じて、新規事業の展開や店舗の出店を行っております。しかし、業務提携や合併会社の設立については、当社グループの事情や判断以外にも相手先からの申出により提携や合併の解消に至る可能性があります。そのような場合、当初期待した効果が得られないこと等により、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 天候等外的な要因に係るリスクについて

天候の影響について

当社グループの主要事業であるレストラン運営事業は、天候要因(天気・気温など)により来店客数が変動する可能性があります。このため、悪天候が長期に及ぶ場合、来店客数の減少により当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

災害等の影響について

当社グループの本社及び店舗は日本にあるほか、世界各地で事業を展開しております。そのため、地震・台風等の自然災害、テロ行為等の違法行為などによる店舗への直接的被害から修理や改築を行うための費用が発生する可能性や、様々な間接的被害から店舗の営業が妨げられる可能性があります。

また、自然災害発生時はもとより、新型コロナウイルス等の感染拡大時において、一時的な店舗閉鎖や企業活動・社会生活・消費動向の大幅な変化等が生じた場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

食品の安全性について

当社グループにおいては、飲食店における衛生管理の重要性を鑑みて、食品衛生法の遵守に加え定期的な従業員への細菌検査及び衛生管理担当者による店舗巡回指導、定期衛生検査の実施、衛生管理への取り組み状況を人事考課に網羅すること等、衛生管理施策の徹底と従業員の衛生管理に対する意識向上に努めております。

しかしながら、これら施策の実施にもかかわらず、当社グループの取り組みを超えた問題が発生した場合は、当社グループに対する信頼の低下、来店客数の減少等により当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

原材料価格の変動について

当社グループの食材調達においては、必要な原材料の中に天候不順による農作物の不作や政府によるセーフガード(緊急輸入制限措置)の発動等、需給関係に急激な変動があった場合、価格が大きく変動する可能性のある原材料が含まれております。当社グループは、こうした状況を鑑みて調達ルートを複数確保するなどの対策を行っております。しかし、調達ルートの一部の中断や関税の引き上げ等、外的な要因によって原材料の仕入価格が変動することなどにより、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

為替相場の変動について

当社グループの持株会社である株式会社WDIは、日本法人であり、海外関係会社の現地通貨建財務諸表を、連結財務諸表作成のために、円換算を行っております。また、当社グループが保有する資産・負債の中には、為替変動の影響を受けるものがあります。従って、為替相場の変動により、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループといたしましては、世界情勢も勘案し予算を立てておりますが、予想外の為替相場の変動が生じた場合には、当社グループの業績と財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

また、海外関係会社に対して外貨による貸付を行っているため、為替相場の変動により多額の為替差損益が発生する可能性があります。

(6) 海外活動に係るリスクについて

当社グループの活動は国内だけに留まらず、米国やミクロネシア、アジア等でも行われております。そのため、事業を展開する国または地域の景気や個人消費の動向などの、経済要因、予期しない法律または規制の変更、人材の採用と確保、テロ・戦争・その他の要因による社会的混乱等のリスクが伴います。

また、海外子会社において税務上の取扱いにより法人税等の負担率が変化する場合があり、これらのことにより当社グループの業績と財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 敷金及び保証金の回収に係るリスクについて

当社グループは、賃借による出店形態が主であり、店舗物件の賃借に際しては、物件所有者に敷金及び保証金を差し入れております。当連結会計年度末における敷金及び保証金の残高は1,891百万円となっております。当社グループにおいては、賃貸借契約の締結に際しては、物件所有者の信用状況等を確認するなど回収可能性を検討し、敷金及び保証金の低減交渉を行った上で決定しておりますが、今後、物件所有者の財政状態の変化等により敷金及び保証金が回収不能となった場合や店舗営業の継続に支障が生じた場合は、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 外食事業における法的規制に係るリスクについて

外食事業においては、食品衛生法の法的規制を受けております。食品衛生法の規定により、各店舗において食品衛生責任者を各都道府県の保健所に届け出て許可を受けております。食品衛生法以外にも食品の表示に関して農林物資の規格化等に関する法律や、環境の保護に関して、各環境保全に関する法令等が適用されるなど様々な法的規制を受けております。今後、社会環境の変化等により、新たな法律の施行や法令の改正等を通じて、法的規制が強化された場合、それに対応するため新たに費用が増加すること等により、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 個人情報管理に係るリスクについて

当社グループは、従業員の情報及び店舗にご来店いただいたお客様の情報等、多数の個人情報を保有しており、全社を挙げて適正管理に努めておりますが、万が一個人情報の漏えいや不正使用等の事態が生じた場合には、社会的信用の失墜、損害賠償請求の提起等により、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 外食事業の競争激化に係るリスクについて

外食事業は、他業界と比較すると参入障壁が低く新規参入が多いこと、業界の垣根を越えた競争が発生していること、また、日本国内においては少子高齢化により市場規模の縮小が見込まれていること等、業界内での競争が激化しております。

当社グループは、このような環境のもと今年度より「信頼されるブランド創り」を重点テーマに掲げております。当社グループが運営する各ブランドはそれぞれ強い個性を持っており、価格競争とは一線を画した、特色ある店舗展開を行うことを方針としております。また、当社グループの強みである多業態のブランドポートフォリオを継続的に活かすため、新業態の研究開発を継続して行うとともに、出店地域につきましても、世界各国を視野に入れて既存店舗がない地域への出店を含め、引き続き検討を行ってまいります。今後も国内外におけるレストラン運営に関するノウハウを蓄積し、成長性と収益性を高めてまいります。

しかしながら、今後、競合他社との更なる競争激化等により、既存店舗の売上高減や不採算店舗の撤退等が発生した場合は、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(11) 人材確保に係るリスクについて

当社グループは、優秀な人材の継続的な確保が重要な経営課題であると認識しております。そのため、新卒者の採用を行うとともに、中途採用やパートナー（アルバイト）の社員登用による即戦力となる人材の確保に努めております。また、人事評価制度や社内教育プログラム（WDIカレッジ）の整備を行うこと等により、従業員の定着率の向上、人材の育成に繋げております。

しかしながら、今後、当社グループが必要とする人材が確保できない場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。また、人材を確保するための採用費用や人件費等が著しく上昇した場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(12) 重要な訴訟に係るリスクについて

当社グループは、フランチャイズ加盟契約など、第三者との契約締結等の業務遂行に当たっては、内容の相互理解を促進し、十分な交渉段階を経るなど、係争等のトラブルが発生しないよう注意を払っております。しかしながら、契約内容の解釈等に相違が生じ、当事者間の交渉では解決に至らなかった場合などに、訴訟が提起される可能性があります。訴訟の内容、結果如何によっては、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。当連結会計年度末現在において、当社グループの業績に重大な影響を及ぼす訴訟等は提起されておられません。

(13) 有利子負債の依存度に係るリスクについて

当社グループは、借入金等の有利子負債の圧縮に努めておりますが、当連結会計年度末において、有利子負債（借入金）の総資産に対する割合は25.3%と比較的高い状況にあります。現在は主に固定金利にて調達しているため、一定期間においては金利変動の影響を受けないこととなりますが、今後調達金利の変動により、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(14) 固定資産の減損に係るリスクについて

当社グループは、所有する固定資産について「固定資産の減損に係る会計基準」を適用しておりますが、外部環境の変化等により収益性が著しく低下した場合、当社グループの保有する資産等について、減損損失を計上する可能性があります。当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(15) 繰延税金資産の回収可能性の評価に係るリスクについて

当社グループは、将来減算一時差異及び税務上の繰越欠損金に対して、将来の課税所得を合理的に見積もった上で回収可能性を判断し、繰延税金資産を計上しております。しかし、将来の課税所得見積額の変更や税制改正に伴う税率の変更等により、繰延税金資産の全部または一部に回収可能性がないと判断した場合、繰延税金資産が減額され、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(16) 情報システムへの依存に係るリスクについて

当社グループは、食材の仕入れ、店舗オペレーション、店舗内外からの受注等のレストランの運営及び業務を、情報システムに依存しております。プログラムの不具合等やコンピュータ・ウイルス、外部からのサイバー攻撃等により、当社グループの情報システムに様々な障害が生じた場合には、レストランの効率的な運営や消費者に対する食品の適時の提供が阻害され、重要なデータを喪失し、又は対応費用が発生すること等により、当社グループの事業、業績、財政状態、ブランドイメージ及び社会的信用に影響を及ぼす可能性があります。

(17) 風評に係るリスクについて

当社グループは、法令違反などの不適切な行為が発生した場合は、速やかに適切な対応を図ってまいりますが、当社グループに対する悪質な風評が、マスコミ報道やインターネット上の書き込みなどにより発生・流布した場合は、それが正確な事実に基づくものであるか否かにかかわらず、当社グループの社会的信用及びブランドイメージを毀損し、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

## 4【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善により、緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、物価上昇が継続していることから、個人消費は伸び悩んでいる状況が続いていると思われる。

海外経済におきましては、地政学的リスクの高まりや資源・エネルギー価格高騰に加え、国際物流への影響も懸念され、先行き不透明な状況が続いております。

外食産業におきましては、訪日外国人の増加によるインバウンド消費の拡大などを背景に、全体としては堅調に推移いたしました。一方で、原材料及びエネルギー価格高騰に加え、物流費や建築費の上昇、さらに人手不足に伴う人件費の増加など、厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、当社グループは今年度より「信頼されるブランド創り」を重点テーマに掲げ、各ブランドの独自性をさらに高め、お客様にとって店舗での時間が「感動体験」となることを引き続き目指してまいります。

あわせて、ブランド価値の向上を図るため、「各ブランドらしいQ.S.C.A(クオリティ、サービス、クレンリネス、アトモスフィア)の向上」、「従業員が誇ることができる職場環境の構築」、「お客様と感動を共有する体験の提供」などの施策に継続して取り組んでおります。

新規出店につきましては、国内において「カプリチオーザ」を大阪市北区のKITTE大阪に1店舗、足立区のららテラス北綾瀬に1店舗、千葉県船橋市のららぽーとTOKYO-BAYに1店舗の計3店舗、「ウルフギャング・ステーキハウス」を港区のニューマン高輪に1店舗、「ティム・ホー・ワン」を千葉県船橋市のららぽーとTOKYO-BAYに1店舗、「フージンツリー」を渋谷区原宿クエストに1店舗、「ハードロックカフェ」のハードロックカフェロックショップを大阪府中央区難波に1店舗、「サラベス」を港区のGREEN TERRACE表参道に1店舗、横浜市中区のBASEGATE横浜関内に1店舗の計2店舗出店いたしました。

以上の結果により、財政状態、経営成績及びセグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

#### 財政状態

##### a. 資産

当連結会計年度末における流動資産は9,555百万円となり、前連結会計年度末より1,098百万円増加いたしました。これは、現金及び預金が623百万円及び売掛金が265百万円増加したこと等によるものであります。固定資産は14,430百万円となり、前連結会計年度末より337百万円増加いたしました。これは、有形固定資産が46百万円及び投資その他の資産が293百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、資産合計は23,985百万円となり、前連結会計年度末より1,435百万円増加いたしました。

##### b. 負債

当連結会計年度末における流動負債は6,617百万円となり、前連結会計年度末より1,420百万円増加いたしました。これは、1年内返済予定の長期借入金が516百万円、未払金が615百万円及び未払法人税等が223百万円増加したこと等によるものであります。固定負債は9,431百万円となり、前連結会計年度末より188百万円増加いたしました。これは、長期借入金が488百万円増加した一方で、リース債務が311百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は16,048百万円となり、前連結会計年度末より1,608百万円増加いたしました。

##### c. 純資産

当連結会計年度末における純資産合計は7,936百万円となり、前連結会計年度末より172百万円減少いたしました。これは、利益剰余金が129百万円増加した一方で、非支配株主持分が313百万円減少したこと等によるものであります。

#### 経営成績

当連結会計年度における売上高は34,518百万円(前期比8.0%増)、営業利益は1,272百万円(前期比69.9%増)、経常利益は1,385百万円(前期比97.7%増)となりました。また、特別利益に「受取立退料」及び「リース解約益」等を計上、特別損失に「減損損失」及び「店舗閉鎖損失」等を計上したことにより、親会社株主に帰属する当期純利益は235百万円(前期比74.6%減)となりました。

セグメントごとの経営成績

a. 日本

国内では、売上高は26,358百万円（前期比12.8%増）、営業利益は2,186百万円（前期比17.3%増）となりました。

b. 北米

北米では、売上高は6,600百万円（前期比6.5%減）、営業損失は287百万円（前年同期は営業損失542百万円）となりました。

c. ミクロネシア

ミクロネシアでは、売上高は1,212百万円（前期比5.5%減）、営業利益は47百万円（前期比14.7%減）となりました。

d. 欧州

欧州では、営業損失は62百万円（前年同期は営業損失35百万円）となりました。

e. アジア

アジアでは、売上高は346百万円（前期比44.5%増）、営業損失は27百万円（前年同期は営業損失44百万円）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、5,776百万円となり、前連結会計年度末より623百万円増加いたしました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により増加した資金は1,722百万円（前期は331百万円の増加）となりました。これは税金等調整前当期純利益787百万円に対して減価償却費786百万円、減損損失974百万円により増加した一方で、法人税等の支払額630百万円、売上債権の増減額268百万円により減少したこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により減少した資金は2,108百万円（前期は249百万円の減少）となりました。これは有形固定資産の取得による支出1,843百万円、敷金及び保証金の差入による支出207百万円により減少したこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により増加した資金は764百万円（前期は667百万円の減少）となりました。これは長期借入による収入2,925百万円により増加した一方で、長期借入金の返済による支出1,918百万円、非支配株主への配当金の支払額150百万円により減少したこと等によるものであります。

（参考）キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
自己資本比率（％）	24.0	28.5	27.4
時価ベースの自己資本比率（％）	93.9	84.7	77.4
キャッシュ・フロー対有利子負債比率（％）	315.5	1,527.2	351.9
インタレスト・カバレッジ・レシオ（倍）	29.0	4.7	18.0

自己資本比率：自己資本/総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額/総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債/キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー/利払い

（注）1. いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

2. 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しております。

3. キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しております。

4. 有利子負債は連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。

5. 利払いは、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

(3) 生産、受注及び販売の実績

生産実績

当社グループは、生産を行っていないため、該当事項はありません。

受注実績

当社グループは、店舗においてお客様から商品の注文をいただき、その場で直接お客様に提供しておりますので、受注実績について記載すべき事項はありません。

販売実績

セグメント別の販売実績を示すと、以下のとおりであります。

報告セグメントの名称	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)		当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)		前年 同期比 (%)
	売上高(千円)	構成比(%)	売上高(千円)	構成比(%)	
日本	23,371,980	73.1	26,358,548	76.4	12.8
北米	7,058,175	22.1	6,600,550	19.1	6.5
ミクロネシア	1,282,999	4.0	1,212,848	3.5	5.5
アジア	239,638	0.8	346,293	1.0	44.5
合計	31,952,794	100.0	34,518,241	100.0	8.0

- (注) 1. 海外子会社においては、前連結会計年度(自2024年1月1日 至2024年12月31日)、当連結会計年度(自2025年1月1日 至2025年12月31日)としております。  
2. セグメント間の取引については、相殺消去しております。

事業部別の販売実績を示すと、以下のとおりであります。

事業部	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)		当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)		前年 同期比 (%)
	売上高(千円)	構成比(%)	売上高(千円)	構成比(%)	
ウルフギャング・ステーキハウス事業部	9,130,251	28.6	10,069,153	29.2	10.3
カプリチョーザ事業部	6,376,076	20.0	7,095,565	20.6	11.3
ハードロックカフェ事業部	2,394,952	7.5	2,881,673	8.3	20.3
ティム・ホー・ワン事業部	3,016,156	9.4	2,802,135	8.1	7.1
ババ・ガンブ・シュリンプ事業部	1,347,242	4.2	1,495,130	4.3	11.0
その他事業部	9,688,116	30.3	10,174,581	29.5	5.0
合計	31,952,794	100.0	34,518,241	100.0	8.0

- (注) 1. 海外子会社においては、前連結会計年度(自2024年1月1日 至2024年12月31日)、当連結会計年度(自2025年1月1日 至2025年12月31日)としております。  
2. 事業部間の取引については、相殺消去しております。

## 店舗数推移

報告セグメントの名称	前連結会計年度 (2025年3月31日)			当連結会計年度 (2026年3月31日)		
	直営	フラン チャイズ	合計	直営	フラン チャイズ	合計
日本	77	60	137	83	57	140
北米	11	-	11	9	-	9
ミクロネシア	3	-	3	2	-	2
アジア	3	5	8	3	3	6
合計	94	65	159	97	60	157

(注) 海外子会社が運営または管理する店舗については、前連結会計年度は2024年12月31日現在、当連結会計年度は2025年12月31日現在の内容であります。

## (4) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

## 財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

当社グループの経営成績につきましては、売上高は価格の適正化による客単価の向上やインバウンド消費の拡大に加え、積極的な出店を進めたことにより、34,518百万円（前期比8.0%増）となりました。

販売管理費は原材料、エネルギー価格の高騰及び人件費の上昇の影響がありましたが、適正価格への調整を行った結果、営業利益は1,272百万円（前期比69.9%増）、経常利益は1,385百万円（前期比97.7%増）となりました。

特別利益には、「受取立退料」や「リース解約益」等を計上しております。特別損失には、店舗の「減損損失」及び「店舗閉鎖損失」等を計上しております。以上の結果により、親会社株主に帰属する当期純利益は235百万円（前期比74.6%減）となりました。

当社グループの経営に影響を与える大きな要因としては、市場動向、フランチャイザーとの契約、原材料価格、海外事業等があります。

市場動向につきましては、他業界と比較すると参入障壁が低く、熾烈な競争が今後も展開されると予想されることから、当社グループを取り巻く経営環境は依然として厳しい状況で推移するものと認識しております。こうした中、当社グループは国内及び海外で多種多様なブランドを幅広く展開している強みを活かし、成長性と収益性を高めてまいります。

フランチャイザーとの契約につきましては、自社で開発した業態以外のブランドをフランチャイズとして展開する場合、フランチャイザーと契約を締結しております。安定的な事業運営を進めるため、今後も友好的な関係を築いてまいります。

原材料価格につきましては、様々な外的要因により、仕入価格の上昇が発生しており、今後も上昇を続けるリスクは避けられないものと認識しております。これまで同様、取引先との関係を強化し、密接な情報交換を行うことで、コスト上昇を可能な限り抑えるための努力を継続してまいります。また、販売価格に転嫁せざるを得ない場合でも、これを適正価格としてお客様に納得していただけるよう、サービス等の付加価値を上げ価格以上の価値を提供できるよう努めてまいります。

海外事業につきましては、展開する国における様々な経済的及び地政学的リスクを伴いますが、海外の子会社と徹底した情報共有を行うなど、あらゆるリスクの低減に向けて取り組んでまいります。

当社グループの経営成績に影響を与える他の要因については、「第2 事業の状況 3 事業等のリスク」をご参照ください。

キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当社グループは、運転資金及び投資資金につきましては、まず営業キャッシュ・フローで獲得した資金を投入し、不足分は金融機関からの長期借入金で調達しております。

長期借入金の調達につきましては、事業計画に基づく資金需要、金利動向等の調達環境及び既存借入金の償還時期等を考慮の上、適宜判断して行っております。

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況については「第2 事業の状況 4 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (2) キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

連結財務諸表及び財務諸表の作成に当たって用いた会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定のうち、重要なものについては「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (重要な会計上の見積り)」に記載のとおりであります。

## 5【重要な契約等】

当連結会計年度において、締結している重要な契約は下記のとおりです。

### (1) フランチャイザーとの契約について

契約名	契約年月日	契約期間	契約相手先	契約内容
<b>カプリチオーザ</b>				
基本契約	2020年1月1日	2020年1月1日より10年間。更に期間満了6ヶ月前までに双方の異議申出がない限り、更に5年間延長、その後も同様とする。	株式会社 伊太利亜飯店 華婦里蝶座	当社グループが日本国内外を問わず「カプリチオーザ」「Capricciosa」の名称、及びフランチャイザーが現在もしくは将来開発もしくは製作する全てのシンボルマーク、ロゴ等表示（商標を含む）の使用を許諾する。また、フランチャイジーがフランチャイズ展開する上での非独占的営業権の付与と、運営上の義務を規定する。但し、関東地方及び日本国を除く全世界については、独占的営業権を許諾する。
<b>トニーローマ</b>				
フランチャイズ契約	1989年11月8日	1989年11月11日より20年間。更に2009年11月11日より20年間延長。	Roma Franchise Corporation (米国)	当社グループが米国カリフォルニア州アナハイムにおいて「トニーローマ」レストランを運営する権限の付与と、運営上の義務を規定する。
フランチャイズ契約	1999年11月1日	1999年11月1日より10年間。更に2009年11月1日より10年間、2019年11月1日より10年間延長。	Roma Systems, Inc. (米国)	当社グループが東京 六本木において「トニーローマ」レストランを運営する権限の付与と、運営上の義務を規定する。
フランチャイズ契約	2025年1月1日	2025年1月1日より2029年10月31日まで。	Roma Systems, Inc. (米国)	当社グループが東京 千代田区三番町において「トニーローマ」レストランを運営する権限の付与と、運営上の義務を規定する。
<b>ハードロックカフェ</b>				
地域開発契約	2024年1月19日	2024年1月19日より2033年12月31日まで。	Hard Rock Limited (米国)	当社グループが日本国内において「ハードロックカフェ」レストランを独占的に展開する権利の付与と、運営上の義務を規定する。
<b>ババ・ガンブ・シュリンプ</b>				
フランチャイズ契約	2000年10月21日	2001年3月22日より10年間。期間満了9ヶ月前までに通知することにより5年間の延長を2回行える。更に2021年3月22日より10年間延長。	Bubba Gump Shrimp Co. International, LLC (米国)	当社グループが大阪 ユニバーサル・シティウォーク大阪において「ババ・ガンブ・シュリンプ」レストランの運営及び関連商品の販売に関する権限の付与と、運営上の義務を規定する。
フランチャイズ契約	2003年2月24日	2003年5月1日より10年間。期間満了9ヶ月前までに通知することにより5年間の延長を2回行える。更に2023年5月1日より10年間延長。	Bubba Gump Shrimp Co. International, LLC (米国)	当社グループが東京 ラクーアにおいて「ババ・ガンブ・シュリンプ」レストランの運営及び関連商品の販売に関する権限の付与と、運営上の義務を規定する。

契約名	契約年月日	契約期間	契約相手先	契約内容
ババ・ガンブ・シュリンプ				
フランチャイズ契約	2003年7月2日	2004年8月27日より10年間。期間満了9ヶ月前までに通知することにより5年間の延長を2回行える。更に2024年7月2日から2036年9月30日まで延長。	Bubba Gump Shrimp Co. International, LLC (米国)	当社グループがインドネシア共和国バリ州において「ババ・ガンブ・シュリンプ」レストランの運営及び関連商品の販売に関する権限の付与と、運営上の義務を規定する。
フランチャイズ契約	2006年6月19日	2006年10月3日より10年間。期間満了9ヶ月前までに通知することにより5年間の延長を2回行える。更に2026年10月4日から2032年1月16日まで延長。	Bubba Gump Shrimp Co. International, LLC (米国)	当社グループが東京 アーバンドック ららぽーと豊洲において「ババ・ガンブ・シュリンプ」レストランの運営及び関連商品の販売に関する権限の付与と、運営上の義務を規定する。
カリフォルニア・ピザ・キッチン				
フランチャイズ契約	2015年12月11日	2015年12月11日より2022年1月20日まで。更に店舗賃貸借契約の更新期間と同期間延長、その後も同様とする。	California Pizza Kitchen, Inc. (米国)	当社グループがラゾーナ川崎プラザ4階において「カリフォルニア・ピザ・キッチン」レストランを運営する権限の付与と、運営上の義務を規定する。
エッグスンシングス				
フランチャイズ契約	2012年5月2日	2012年5月2日より5年間。期間満了6ヶ月前までに双方の異議申出がない限り、更に2年間の延長、その後も同様とする。	EGGS 'N THINGS JAPAN株式会社	当社グループが藤沢市片瀬海岸THE BEACH HOUSE 1階において「エッグスンシングス」レストランの運営及び関連商品の販売に関する権限の付与と、運営上の義務を規定する。
フランチャイズ契約	2014年3月12日	2014年3月12日より5年間。期間満了6ヶ月前までに双方の異議申出がない限り、更に2年間の延長、その後も同様とする。	EGGS 'N THINGS JAPAN株式会社	当社グループが神戸市中央区川崎町神戸ハーバーランドumieモザイク棟2階において「エッグスンシングス」レストランの運営及び関連商品の販売に関する権限の付与と、運営上の義務を規定する。
フランチャイズ契約	2015年3月30日	2015年3月30日より5年間。期間満了6ヶ月前までに双方の異議申出がない限り、更に2年間の延長、その後も同様とする。	EGGS 'N THINGS JAPAN株式会社	当社グループがさいたま市大宮区吉敷町コクーンシティコクーン2 1階において「エッグスンシングス」レストランの運営及び関連商品の販売に関する権限の付与と、運営上の義務を規定する。

契約名	契約年月日	契約期間	契約相手先	契約内容
<b>エッグスンシングス</b>				
フランチャイズ契約	2015年11月18日	2015年11月18日より5年間。期間満了6ヶ月前までに双方の異議申出がない限り、更に2年間の延長、その後も同様とする。	EGGS 'N THINGS JAPAN株式会社	当社グループが立川市泉町ららぽーと立川立飛1階において「エッグスンシングス」レストランの運営及び関連商品の販売に関する権限の付与と、運営上の義務を規定する。
フランチャイズ契約	2015年11月18日	2015年11月18日より5年間。期間満了6ヶ月前までに双方の異議申出がない限り、更に2年間の延長、その後も同様とする。	EGGS 'N THINGS JAPAN株式会社	当社グループが川崎市幸区堀川町ラゾーナ川崎プラザ4階において「エッグスンシングス」レストランの運営及び関連商品の販売に関する権限の付与と、運営上の義務を規定する。
<b>グランド・セントラル・オイスター・バー&amp;レストラン</b>				
フランチャイズ契約	2003年7月23日	2003年7月23日より10年間、更に5年間の延長及び10年間の延長を行える。	Grand Central Oyster Bar & Restaurant Franchising Inc. (米国)	当社グループがアトレ品川において「グランド・セントラル・オイスター・バー&レストラン」を運営し、同事業に關与して商標及び営業システムを使用する権限の付与と、運営上の義務を規定する。
<b>サラベス</b>				
ライセンス契約	2012年7月27日	2012年7月27日より10年間。更に5年間の延長を行える。	Sarabeth's Kitchen, LLC (米国)	当社グループが日本において「サラベス」レストランの運営及び関連商品の販売に関する独占的ライセンス権の付与と、運営上の義務を規定する。
ライセンス契約	2016年1月18日	2016年1月18日より10年間。更に5年間の延長を行える。	Sarabeth's Taiwan Ventures, LLC (米国)	当社グループが台湾において「サラベス」レストランの運営及び関連商品の販売に関する独占的ライセンス権の付与と、運営上の義務を規定する。
<b>ブヴェット</b>				
ライセンス契約	2016年9月25日	2016年9月25日より10年間。更に5年間の延長を行える。	Air Buvette Corp. (米国)	当社グループが日本において「ブヴェット」レストランの運営及び関連商品の販売に関する権限の付与と、運営上の義務を規定する。
ライセンス契約	2024年10月22日	2024年10月22日より10年間。更に5年間の延長を行える。	Air Buvette Corp. (米国)	当社グループが英国 ロンドンにおいて「ブヴェット」レストランの運営及び関連商品の販売に関する権限の付与と、運営上の義務を規定する。
<b>巨牛荘</b>				
フランチャイズ契約	2006年4月1日	2006年4月1日より5年間。更新拒絶の申し入れがない場合、2年ごとの自動延長を行える。	株式会社いちおし	当社グループがフランチャイザーの全ての商号、サービスマーク、商標及びその他一切の標章を使用し「巨牛荘」の名称にて運営する上での独占的営業権の付与と、運営上の義務を規定する。

契約名	契約年月日	契約期間	契約相手先	契約内容
ティム・ホー・ワン				
ライセンス契約	2017年11月29日	2018年1月10日より8年間。期間満了12ヶ月前までに通知することにより、更に8年間の延長を行える。	Tim Ho Wan Pte. Ltd. (シンガポール共和国)	当社グループが東京 千代田区日比谷において「ティム・ホー・ワン」レストランの運営及び関連商品の販売に関する権限の付与と、運営上の義務を規定する。
ライセンス契約	2023年2月10日	2023年2月10日より8年間。期間満了12ヶ月前までに通知することにより、更に8年間の延長を行える。	Tim Ho Wan Pte. Ltd. (シンガポール共和国)	当社グループが東京 文京区春日において「ティム・ホー・ワン」レストランの運営及び関連商品の販売に関する権限の付与と、運営上の義務を定める。
ライセンス契約	2024年3月4日	2024年1月12日より8年間。期間満了12ヶ月前までに通知することにより、更に8年間の延長を行える。	Tim Ho Wan Pte. Ltd. (シンガポール共和国)	当社グループが大阪 北区茶屋町において「ティム・ホー・ワン」レストランの運営及び関連商品の販売に関する権限の付与と、運営上の義務を規定する。
ライセンス契約	2025年10月20日	2025年9月26日より8年間。期間満了12ヶ月前までに通知することにより、更に3～8年間の延長を行える。	Tim Ho Wan Pte. Ltd. (シンガポール共和国)	当社グループが千葉 船橋市において「ティム・ホー・ワン」レストランの運営及び関連商品の販売に関する権限の付与と、運営上の義務を規定する。
ウルフギャング・ステーキハウス				
ライセンス契約	2007年4月12日	店舗賃貸借契約と同一期間。6ヶ月前までの予告により5年間の延長を行える。	W STEAK CORP. (米国)	当社グループが米国ハワイ州ホノルルにおいて「ウルフギャング・ステーキハウス」レストランを運営する独占的ライセンス権の付与と、運営上の義務を規定する。
ライセンス契約	2014年1月30日	2014年1月30日より5年間。期間満了6ヶ月前までに通知することにより5年間の延長を行える。更に、2026年10月14日まで延長し、店舗賃貸借契約と同一期間で延長を行える。	W Steak International Corp. (米国)	当社グループが東京 港区六本木において「ウルフギャング・ステーキハウス」レストランを運営する独占的ライセンス権の付与と、運営上の義務を規定する。
ライセンス契約	2014年8月27日	2014年8月27日より5年間。期間満了6ヶ月前までに契約期間の延長を希望する場合は、更に、2029年8月26日まで延長。	W Steak International Corp. (米国)	当社グループが東京 千代田区丸の内において「ウルフギャング・ステーキハウス」レストランを運営する独占的ライセンス権の付与と、運営上の義務を規定する。

契約名	契約年月日	契約期間	契約相手先	契約内容
ウルフギャング・ステーキハウス				
ライセンス契約	2015年4月15日	2015年4月15日より5年間。期間満了6ヶ月前までに契約期間の延長を希望する場合は、更に、2030年4月14日まで延長。	W Steak International Corp. (米国)	当社グループが大阪 北区梅田において「ウルフギャング・ステーキハウス」レストランを運営する独占的ライセンス権の付与と、運営上の義務を規定する。
ライセンス契約	2016年1月8日	2016年1月8日より5年間。期間満了6ヶ月前までに契約期間の延長を希望する場合は、更に、2030年12月31日まで延長。	W Steak International Corp. (米国)	当社グループが福岡 博多区住吉において「ウルフギャング・ステーキハウス」レストランを運営する独占的ライセンス権の付与と、運営上の義務を規定する。
ライセンス契約	2019年6月14日	2019年6月14日より5年間。期間満了6ヶ月前までに契約期間の延長を希望する場合は、更に5年間の延長を行える。	W Steak International Corp. (米国)	当社グループが東京 港区北青山において「ウルフギャング・ステーキハウス」レストランを運営する独占的ライセンス権の付与と、運営上の義務を規定する。
ライセンス契約	2025年4月8日	2025年4月8日より5年間。期間満了6ヶ月前までに契約期間の延長を希望する場合は、更に5年間の延長を行える。	W Steak International Corp. (米国)	当社グループが東京 港区高輪において「ウルフギャング・ステーキハウス」レストランを運営する独占的ライセンス権の付与と、運営上の義務を規定する。
カサフリアン				
ライセンス契約	2024年10月16日	2024年10月16日から10年間。更に5年間の延長を行える。	Matias Gorrochategui Casa Julian Tolosa S.L.U (スペイン)	当社グループが日本において「カサフリアン」レストランを運営する権限の付与と、運営上の義務を規定する。

(注) 当社は、2009年12月1日付で会社分割により、当社の完全子会社として株式会社WDI JAPANを設立し、当社の営む外食事業に関する権利義務を承継させております。従って、これまで当社を主体として締結された外食事業に関する契約は、その地位は株式会社WDI JAPANに移管されております。

( 2 ) 合併契約について

契約会社名	相手方の名称	相手先の所在地	契約締結日	合併会社の内容
WDI International , Inc .	W STEAK CORP .	米国	2007年 4 月12日	会社名 W STEAK WAIKIKI , LLC 目的 米国ハワイ州における「ウルフギャング・ステーキハウス」レストランの運営及び管理 資本金 US\$200,000 設立日 2007年 4 月10日
株式会社WDI JAPAN	W Steak International Corp.	米国	2014年 1 月30日	会社名 株式会社 Wolfgang's Steakhouse JAPAN 目的 日本における「ウルフギャング・ステーキハウス」レストランの運営及び管理 資本金 10,000千円 設立日 2014年 1 月 8 日
株式会社WDI JAPAN	富錦樹文創科技 股份有限公司	台湾	2018年12月28日	会社名 株式会社FUJIN TREE JAPAN 目的 日本における「フージンツリー」ブランドのレストラン、その他事業の運営及び管理 資本金 45,000千円 設立日 2019年 3 月 1 日
株式会社WDI JAPAN	Dim Sum Pte. Ltd.	シンガポール 共和国	2023年 1 月 5 日	会社名 株式会社WDI Dim Sum Japan 目的 日本における「ティム・ホー・ワン」ブランドのレストランの運営及び管理 資本金 100,000千円 設立日 2022年11月11日

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループは、直営での新規出店及び既存店舗への改装投資を継続いたしました。

新規出店につきましては、国内において「カプリチオーザ」を大阪市北区のKITTE大阪に1店舗、足立区のららテラス北綾瀬に1店舗、千葉県船橋市のららぽーとTOKYO-BAYに1店舗の計3店舗、「ウルフギャング・ステーキハウス」を港区のニューマン高輪に1店舗、「ティム・ホー・ワン」を千葉県船橋市のららぽーとTOKYO-BAYに1店舗、「フージンツリー」を渋谷区の前原クエストに1店舗、「ハードロックカフェ」のハードロックカフェロックショップを大阪府中央区難波に1店舗、「サラベス」を港区のGREEN TERRACE表参道に1店舗、横浜市中区のBASEGATE横浜関内に1店舗の計2店舗出店いたしました。

設備投資額といたしましては、日本において1,860,301千円、北米において48,140千円、ミクロネシアにおいて14,807千円、アジアにおいて2,172千円、欧州において497,411千円、これに全社資産への設備投資額261,613千円を含め、合計で2,684,447千円となりました。なお、設備投資の金額には無形固定資産と保証金の金額が含まれております。

## 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

### (1) 提出会社(日本)

事業所名 (所在地)	事業部門の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (人)
			建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	その他	合計	
本社等(東京都港区等)	会社統括業務・ その他業務	総括業務 設備	1,248,821	2,490,358 (1,458.44)	8,494	3,747,674	5 (-)

(注) 建物及び構築物、土地及びその他の一部について、賃貸取引を行っております。

詳細につきましては「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (賃貸等不動産関係)」の記載をご参照ください。

### (2) 国内子会社(日本)

事業所名 (所在地)	事業部門の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (人)
			建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	その他	合計	
株式会社WDI JAPAN 本社等 (東京都港区等)	会社統括業務	総括業務 設備	165,300	-	144,778	310,078	100 (8)
丸の内店(注5) (東京都千代田区)	ウルフギャング・ ステーキハウス事業	飲食店舗	64,663	-	15,548	80,212	184 (166)
六本木店(注5) (東京都港区)	ウルフギャング・ ステーキハウス事業	飲食店舗	64,334	-	8,254	72,588	135 (118)
シグニチャー青山店 (注5) (東京都港区)	ウルフギャング・ ステーキハウス事業	飲食店舗	138,686	-	3,381	142,067	102 (90)
高輪店(注5) (東京都港区)	ウルフギャング・ ステーキハウス事業	飲食店舗	335,529	-	71,567	407,096	106 (89)
大阪店(注5) (大阪市北区)	ウルフギャング・ ステーキハウス事業	飲食店舗	67,953	-	7,218	75,171	109 (99)
福岡店(注5) (福岡市博多区)	ウルフギャング・ ステーキハウス事業	飲食店舗	56,045	-	14,220	70,266	72 (63)
ららぽーとTOKYO-BAY店 (千葉県船橋市)	カプリチオーザ事業	飲食店舗	47,820	-	12,680	60,501	43 (40)
リンクスウメダ店 (大阪市北区)	カプリチオーザ事業	飲食店舗	52,240	-	13,765	66,006	71 (65)
KITTE大阪店 (大阪市北区)	カプリチオーザ事業	飲食店舗	65,251	-	9,826	75,078	45 (42)

事業所名 (所在地)	事業部門の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (人)
			建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	その他	合計	
京都店 (京都市東山区)	ハードロックカフェ 事業	飲食店舗	204,091	-	52,929	257,021	78 (69)
東京ドーム ラクーア店 (注6) (東京都文京区)	ティム・ホー・ ワン事業	飲食店舗	94,511	-	9,471	103,982	76 (66)
ららぽーとTOKYO-BAY店 (注6) (千葉県船橋市)	ティム・ホー・ ワン事業	飲食店舗	103,547	-	29,708	133,256	46 (38)
サラベス表参道店 (東京都港区)	その他事業	飲食店舗	112,846	-	31,561	144,407	37 (31)
サラベス BASEGATE横浜関内店 (横浜市中区)	その他事業	飲食店舗	104,260	-	35,515	139,776	54 (47)
フージンツリー 原宿クエスト店(注7) (東京都渋谷区)	その他事業	飲食店舗	166,619	-	34,548	201,168	41 (31)
ちんや浅草本店 (東京都台東区)	その他事業	飲食店舗	63,643	-	5,982	69,625	37 (20)
ブヴェット (東京都千代田区)	その他事業	飲食店舗	64,252	-	2,341	66,593	61 (46)

(注) 1. 建設仮勘定は含まれておりません。

2. 帳簿価額の「その他」の内訳は、工具、器具及び備品等です。

3. 従業員数は就業員数であり、臨時雇用者数は( )内に年間の平均人員を内数で記載しております。

4. 日本における事務所及びレストラン店舗の建物及び構築物を賃借しております。年間の賃借料は2,076,014千円であります。

5. 株式会社Wolfgang's Steakhouse JAPANが運営しております。

6. 株式会社W D I Dim Sum Japanが運営しております。

7. 株式会社FUJIN TREE JAPANが運営しております。

8. その他の店舗につきましては株式会社W D I JAPANが運営しております。

(3) 在外子会社  
(北米)

事業所名 (所在地)	事業部門の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (人)
			建物及び 構築物	使用権資産	その他	合計	
Waikiki店(注6) (米国ハワイ州ホノルル市)	ウルフギャング・ ステーキハウス事業	飲食店舗	738,655	1,243,656	45,502	2,027,814	123 (64)
Mauい店(注7) (米国ハワイ州マウイ郡)	ウルフギャング・ ステーキハウス事業	飲食店舗	-	347,480	-	347,480	24 (13)
Waikiki店(注8) (米国ハワイ州ホノルル市)	ティム・ホー・ ワン事業	飲食店舗	10,899	300,342	9,985	321,226	31 (14)
Katy店(注9) (米国テキサス州 ケイティ市)	ティム・ホー・ ワン事業	飲食店舗	-	115,083	-	115,083	26 (11)
Appetito Waikiki店(注8) (米国ハワイ州ホノルル市)	その他事業	飲食店舗	1,827	193,169	4,392	199,390	47 (31)
Taormina Waikiki店(注8) (米国ハワイ州ホノルル市)	その他事業	飲食店舗	10,171	75,425	11,681	97,278	33 (13)

(ミクロネシア)

事業所名 (所在地)	事業部門の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (人)
			建物及び 構築物	使用権資産	その他	合計	
Agana店 (注8) (米国グアム準州)	カプリチョーザ事業	飲食店舗	5,142	46,333	13,636	65,112	50 (30)
Tony Roma's Anaheim店 (注8) (米国グアム準州)	その他事業	飲食店舗	701	216,910	-	217,612	36 (29)

(アジア)

事業所名 (所在地)	事業部門の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (人)
			建物及び 構築物	使用権資産	その他	合計	
ICON Bali店 (注10) (インドネシア共和国 バリ州)	ババ・ガンブ・シュ リンブ事業	飲食店舗	43,532	66,470	23,555	133,557	45 (-)
Appetito ICON Bali店 (注10) (インドネシア共和国 バリ州)	その他事業	飲食店舗	26,223	65,471	21,369	113,065	30 (-)

- (注) 1. 海外事業分は、2025年12月31日現在を記載しております。  
2. 建設仮勘定は含まれておりません。  
3. 帳簿価額の「その他」の内訳は、工具、器具及び備品等です。  
4. 従業員数は就業員数であり、臨時雇用者数は( )内に年間の平均人員を内数で記載しております。  
5. 海外における事務所及びレストラン店舗の建物及び構築物を賃借しております。年間の賃借料は825,893千円  
であります。  
6. W STEAK WAIKIKI, LLCが運営しております。  
7. W STEAK MAUI, LLCが運営しております。

- 8 . WDI International, Inc.が運営しております。  
9 . WDI-NQ, LLCが運営しております。  
10 . P.T. WDI Indonesiaが運営しております。

### 3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、新規出店計画を元に候補地、規模を勘案し、業態特性に応じた出店を選定してまいります。

なお、当連結会計年度末における重要な設備の新設、改修計画は次のとおりであります。

#### ( 1 ) 重要な設備の新設

会社名 事業所名	所在地	報告 セグメ ントの 名称	設備の 内容	投資予定金額		資金調 達方法	着手及び完了予定		完成後の 増加能力 ( 席数 )
				総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了	
株式会社WDI JAPAN カサフリアン	東京都港区	日本	飲食店舗	240,000	45,639	借入金	2026年 4月	2026年 12月	88
WDI UK Ltd. Buvette London店	英国 ロンドン	欧州	飲食店舗	804,550	559,982	資本金	2025年 12月	2026年 4月	87

( 注 ) 投資予定金額には使用权資産、敷金及び保証金を含んでおります。

#### ( 2 ) 重要な改修

該当事項はありません。

#### ( 3 ) 重要な除却、売却

該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	22,127,680
計	22,127,680

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (2026年3月31日)	提出日現在発行数 (株) (2026年6月25日)	上場金融商品取引所名又は登録 認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	6,331,920	6,331,920	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	6,331,920	6,331,920	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2021年6月25日 (注)	-	6,331,920	535,558	50,000	-	588,655

(注) 会社法第447条第1項の規定に基づき、資本金をその他資本剰余金へ振り替えたものであります。

( 5 ) 【所有者別状況】

2026年3月31日現在

区 分	株式の状況 ( 1 単元の株式数100株 )							単元未満株式の状況 ( 株 )	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数 ( 人 )	-	1	16	125	23	23	14,121	14,309	-
所有株式数 ( 単元 )	-	5	1,266	2,764	15,768	36	43,445	63,284	3,520
所有株式数の割合 ( % )	-	0.01	2.00	4.37	24.91	0.06	68.65	100	-

( 注 ) 自己株式66,430株は、「個人その他」に664単元及び「単元未満株式の状況」に30株を含めて記載しております。

( 6 ) 【大株主の状況】

2026年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 ( 株 )	発行済株式 ( 自己株式を除く。 ) の総数に対する所有株式数の割合 ( % )
Soken Corp.	東京都港区三田2-3-34	1,512,000	24.13
清水 洋二	東京都港区	586,740	9.36
清水 謙	東京都港区	154,400	2.46
WDI従業員持株会	東京都港区六本木5-5-1	69,740	1.11
JPモルガン証券株式会社	東京都千代田区丸の内2-7-3	65,848	1.05
サントリー株式会社	東京都港区台場2-3-3	60,000	0.96
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋1-13-1	41,630	0.66
麒麟麦酒株式会社	東京都中野区中野4-10-2	40,000	0.64
孫 正義	東京都港区	36,000	0.57
宮内 義彦	東京都品川区	36,000	0.57
計	-	2,602,358	41.53

( 注 ) 1 . 上記のほか、当社は自己株式66,430株を所有しております。

2 . 前事業年度末において主要株主であった清水洋二氏は、当事業年度末時点では主要株主ではなくなりました。

(7) 【議決権の状況】  
【発行済株式】

2026年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 66,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,262,000	62,620	-
単元未満株式	普通株式 3,520	-	-
発行済株式総数	6,331,920	-	-
総株主の議決権	-	62,620	-

(注) 単元未満株式には、当社所有の自己株式30株が含まれております。

【自己株式等】

2026年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
株式会社WD I	東京都港区虎ノ門 二丁目4番7号	66,400	-	66,400	1.05
計	-	66,400	-	66,400	1.05

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	44	137,940
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、2026年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

### (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(譲渡制限付株式報酬による自己株式の処分)	10,900	24,486,839	-	-
保有自己株式数	66,430	-	66,430	-

(注) 1. 当事業年度における「その他(譲渡制限付株式報酬による自己株式の処分)」は2025年7月23日に実施した譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分であります。

2. 当期間における保有自己株式数には、2026年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの譲渡制限付株式報酬による自己株式の処分及び単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

## 3【配当政策】

当社は、株主様への利益還元を重要な経営課題と位置付けております。財務体質の強化、収益力の向上を図りながら長期的かつ安定した配当及び利益還元の実施を方針としており、業績や配当性向等を総合的に考慮して利益配当額を決定しております。

当社の剰余金の配当は、期末配当の年1回を基本方針としており、剰余金の配当の決定機関は、株主総会でありませ

す。また、当社は「取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりとなる見込みです。期末配当に関する1株当たり配当額17円につきましては、2026年6月26日開催予定の定時株主総会の決議事項となっております。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
2026年6月26日 定時株主総会決議(予定)	106,513	17

## 4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、株主価値向上のため、また、株主をはじめとする全てのステークホルダー（利害関係者）の信頼に足る経営を実現するために、法令の遵守と高い透明性及び迅速な意思決定を可能とする経営システムの構築と、経営執行に対するチェック体制の充実の二点を重視していくことと捉えております。

経営の健全性、透明性及び効率性を追求することで、企業価値の継続的な向上と社会からの信頼を獲得することを目的に、当社に最も適した経営体制を構築し、ステークホルダーの信頼に足る経営実現のため、コーポレート・ガバナンスを強化してまいります。また、今後も株主のみならず、お客様、従業員、取引先等の利害関係者との関係をより緊密にし、企業倫理・コンプライアンスに充分留意した経営を行ってまいります。

企業統治の体制の概要とその体制を採用する理由

当社は、監査役制度を採用しており、取締役会による業務執行の監督と監査役による監査を軸とした経営監視体制を構築しております。

当社がこのような体制を採用している理由は、「コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方」で記載のとおり、企業価値の継続的な向上と社会からの信頼を獲得するため、当社に最も適した経営体制の構築を具現化できる体制であると考えているためであります。

#### a. 取締役会

取締役会は、代表取締役社長、または取締役会長を議長とし、できる限り少数の意思決定機関とすることで経営環境の変化に迅速かつ効率的な経営判断ができる体制とするため、取締役は6名としております。うち2名は社外取締役を選任しており、経営全般について客観的な立場から幅広い提言を得ております。有価証券報告書提出日現在の取締役会の構成員の氏名は、後記「(2) 役員の状況 役員一覧」のとおりです。

当社では、代表取締役及び業務担当取締役が業務執行を行っており、当該業務執行について取締役会が監督しております。取締役会では取締役会規程に基づき、資本コストや株価を意識した経営や会社の重要事項等を討議・決定し、また、監督を行っており、原則として1ヶ月に1回開催し、臨時取締役会は必要に応じて随時開催しております。

#### b. 監査役会

監査役会は、常勤監査役を議長とし、全員が社外監査役の3名（常勤1名/非常勤2名）で構成しております。有価証券報告書提出日現在の監査役会の構成員の氏名は、後記「(2) 役員の状況 役員一覧」のとおりです。

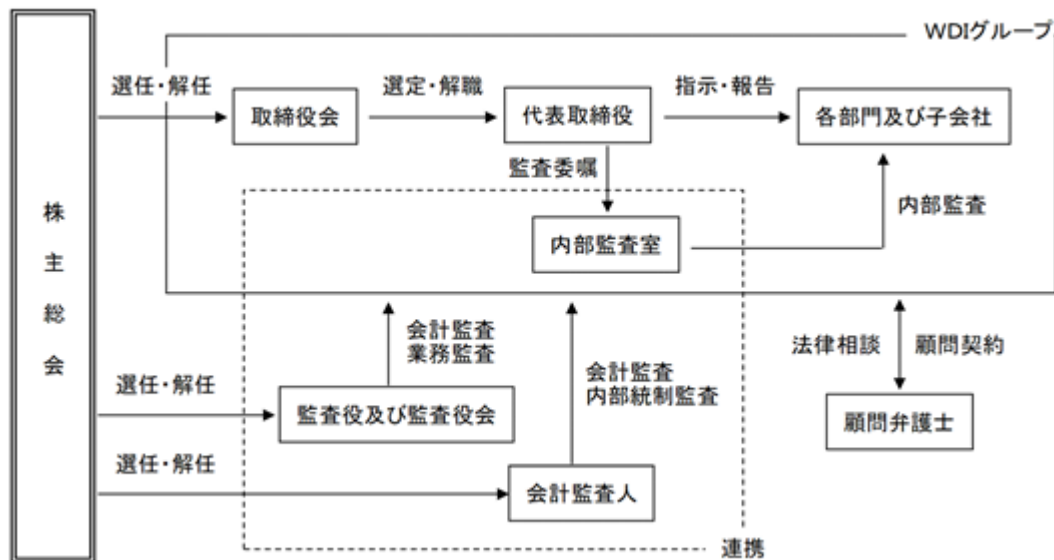
各監査役は、監査役監査基準に基づき監査を行っており、全ての取締役会に出席し意見を述べるほか、社内の重要な会議にも随時出席し、必要に応じて担当部門に対するヒアリングを行い、担当部署からの報告を通じて、経営全般及び個別案件に関して業務執行の監査をしております。また、監査役は監査法人と意見交換を適宜行い、取締役の業務執行の妥当性、適法性につき監査を行っております。

#### c. 内部監査室

当社では、代表取締役の直轄の機関として内部監査室（内部監査室長以下2名体制）を設置し、内部監査を行っております。内部監査室は、業務執行の適切性・効率性を確保するために、通常の業務執行から独立した機関として構成されており、内部監査規程及び年次計画に基づいて、各部門の業務が経営方針、社内諸規程並びに関係諸法令に準拠しているかどうか重点をおいた書類監査及び実地監査を実施しております。また、内部統制についても内部監査室が担当しております。

内部監査室と監査役は随時連携を取って監査を実施しており、業務執行に関しての問題点を発見した場合は互いに連携を密にし、問題の解決に当たっております。また、内部監査の実効性を確保するための取組として、内部監査の計画及び結果等について、取締役会への報告はしてはおりませんが、代表取締役のみならず、監査役会に対しても直接報告を行う体制を構築・運用しております。

d . 模式図



企業統治に関するその他の事項

a . 内部統制システムの整備状況

内部統制システムの整備状況としては、監査役監査、内部監査により、経営組織の整備状況、業務運営の効率性の評価・検討、問題点の指摘、改善状況等のフォローアップを行うことで、会社グループ全体の内部統制システムを評価することが可能となり、業務遂行に対するモニタリング、法令及び企業倫理遵守、会社における不祥事等のリスク発生を未然に防止する機能が強化されたものと考えております。更に、内部統制システムを支える基礎として従業員教育・育成に力を入れており、社内外の研修等を通じて健全な組織風土の形成を積極的に推進しております。

常に密接な情報交換、部門の壁を超えた議論と協力等を促進することが、過剰なセクショナリズムの排除、従業員の目的意識の更なる向上及び風通しの良い組織等の実現に寄与し、社内において法令及び企業倫理の遵守、誠実・公正な行動等が守られる土壌が育成されるものと考えております。

b . リスク管理体制の整備の状況

当社及び当社グループは、会社組織や業務に関わる各種規程類を整備し、その適正な運用に努めてまいりました。特に内部牽制が組織全体にわたって機能するよう、社内規程によるルール化を徹底するとともに、業務に関するリスクを管理するなど、健全な経営基盤の確立に努めております。また、企業倫理の確立及びコンプライアンスの徹底のため、当社は「コンプライアンス・マニュアル」「WDI行動規範」を使用し、全ての役員・従業員のコンプライアンス意識の高揚を図っております。

c . 子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

当社は「関係会社管理規程」に基づき、グループ会社に対する適切な経営管理を行っております。子会社の年次計画及び年度予算は当社の取締役会で承認し、計画の進捗状況に関して定期的に取り締役に於いて報告を受けております。

グループ会社に関しても、内部監査室が定期的に監査を実施するとともに、業務の適正性を確保する体制を整備しております。

d . 責任限定契約の内容の概要

当社と取締役（業務執行取締役等であるものを除く）及び監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項各号に定める金額の合計額としております。

e . 役員等賠償責任保険契約の概要

当社は、保険会社との間で会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しております。同保険契約においては、当社取締役を含む被保険者の職務遂行上の過失等を理由とする法律上の損害賠償責任に関わる損害等を当該保険契約によって補填することとしております。

f . 取締役の定数

当社の取締役は、10名以内とする旨を定款に定めております。

g．取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。

取締役の選任決議は、累積投票によらない旨を定款で定めております。

h．取締役会で決議できる株主総会決議事項

イ．中間配当の決定機関

当社は、中間配当について機動的な配当政策を可能とするため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

ロ．自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、取締役会の決議によって、市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

ハ．取締役及び監査役の責任免除

当社は、取締役及び監査役が職務の遂行に当たり期待される役割を十分に発揮できるよう、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む）及び監査役（監査役であった者を含む）の損害賠償責任を、法令の限度において取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。

i．株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会を円滑に運営することを目的とするものであります。

j．取締役会の活動状況

当事業年度において当社は取締役会を19回開催しており、個々の取締役の出席状況については、次のとおりであります。

清水 謙	19回/19回（100.0%）	清水 洋二	19回/19回（100.0%）
佐々木 智晴	19回/19回（100.0%）	堀内 順	19回/19回（100.0%）
中谷 巖	18回/19回（94.7%）	阿部 佳	19回/19回（100.0%）

また、取締役会における具体的な検討内容は、次のとおりであります。

分類	付議報告回数
決算・財務関連	33
事業展開関連	34
監査役・会計監査人関連	5
内部統制・コンプライアンス関連	5
サステイナビリティ関連	2
個別議案	16
合計	95

(2) 【役員の状況】

役員一覧

有価証券報告書提出日現在の役員一覧は下記のとおりです。なお、2026年6月26日開催の2026年3月期に係る定時株主総会における決議事項である取締役選任議案が承認可決された場合の役員一覧は下記と変更ありません。

男性 7名 女性 2名 (役員のうち女性の比率22.2%)

役職名	氏名	生年月日	職歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長	清水 謙	1968年6月23日生	1992年4月 株式会社さくら銀行 入行 1993年6月 Soken Corp. 代表取締役社長(現任) 1998年5月 当社 入社 取締役 2002年7月 WDI International, Inc. 取締役 2003年4月 当社 代表取締役社長兼C.O.O. 2003年12月 P.T. WDI Indonesiaコミッショナー(現任) 2008年6月 当社 代表取締役社長(現任) 2009年12月 株式会社WDI JAPAN 代表取締役(現任) 2014年1月 株式会社Wolfgang's Steakhouse JAPAN 代表取締役(現任) 2018年6月 株式会社プロネクサス 取締役(現任) 2019年1月 WDI UK Ltd. 取締役(現任) 2019年3月 株式会社FUJIN TREE JAPAN 代表取締役(現任) 2022年11月 株式会社WDI Dim Sum Japan 代表取締役(現任)	(注) 4	154,400
取締役 会長	清水 洋二	1941年1月26日生	1963年4月 東急不動産株式会社 入社 1969年4月 中央興行株式会社 入社 同社 代表取締役 1971年5月 当社 代表取締役社長 1979年8月 WDI International, Inc. 取締役 2000年10月 当社 代表取締役会長兼C.E.O. 2008年6月 当社 取締役会長(現任) 2017年6月 株式会社WDI JAPAN 取締役	(注) 4	586,740
取締役 管理本部本部長	佐々木 智晴	1966年11月10日生	1989年4月 株式会社太陽神戸銀行 入行 2000年3月 株式会社シュウウエムラシステム 入社 2001年2月 当社 入社 2003年4月 当社 執行役員 当社 管理本部 本部長(現任) 2006年6月 当社 取締役(現任) 2009年12月 株式会社WDI JAPAN 取締役(現任) 2014年1月 株式会社Wolfgang's Steakhouse JAPAN 監査役(現任) 2019年3月 株式会社FUJIN TREE JAPAN 監査役(現任) 2021年2月 WDI International, Inc. 取締役(現任) 2022年11月 株式会社WDI Dim Sum Japan 監査役(現任)	(注) 4	10,900

役職名	氏名	生年月日	職歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	堀内 順	1973年 8月27日生	1993年 6月 当社 入社 2007年 7月 当社 国際企画部 部長 2007年12月 P.T. WDI Indonesia プレジデント・ダイレクター（現任） 2009年 1月 WDI International, Inc. 取締役 2009年 4月 同社 代表取締役（現任） 2009年 4月 W STEAK WAIKIKI, LLC 取締役（現任） 2010年 6月 Mundy New York, Inc. 代表取締役 2014年 1月 株式会社Wolfgang's Steakhouse JAPAN 取締役（現任） 2015年 6月 当社 取締役（現任） 2016年 1月 FG Restaurant, LLC 代表取締役（現任） 2016年 3月 WDI New York, LLC 取締役（現任） 2018年11月 WDI CANADA RESTAURANT, INC. プレジデント （現任） 2019年 1月 WDI UK Ltd. 代表取締役（現任） 2020年 2月 FLORA PLANT KITCHEN HOLDING, LLC 取締役 2021年 7月 WDI-NQ, LLC 代表取締役（現任）	(注) 5	10,500
取締役	中谷 巖	1942年 1月22日生	1965年 4月 日産自動車株式会社 入社 1971年 7月 ハーバード大学 経済学部助手 1973年 7月 同大学 経済学部講師及び研究員 1974年 7月 大阪大学 経済学部助教授 1984年 4月 同大学 経済学部教授 1991年10月 一橋大学 商学部教授 1999年 6月 ソニー株式会社 取締役 1999年 7月 多摩大学 経営情報学部教授 2000年 4月 三和総合研究所（現三菱UFJリサーチ&コンサル ティング株式会社） 理事長 2000年10月 アスクル株式会社 取締役 2001年 9月 多摩大学 学長 同大学 教授 同大学 ルネッサンスセンター長 2003年 3月 当社 取締役（現任） 2005年 6月 富士火災海上保険株式会社 取締役 2007年 4月 株式会社スカパーJSATホールディングス 取締役 2010年 4月 一般社団法人不識庵 理事長 2018年 4月 株式会社不識庵 代表取締役（現任）	(注) 4	2,000

役職名	氏名	生年月日	職歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	阿部 佳	1959年10月26日生	1982年4月 株式会社バルコ 入社 1983年9月 財団法人幼児開発協会 入社 1984年10月 同財団 企画室長 1992年1月 ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル 入社 1995年3月 同ホテル ヘッドコンシェルジュ 1995年7月 レ・クレドールシンガポールジャパンブランド 正会員 1997年1月 レ・クレドールインターナショナル 正会員 1998年4月 レ・クレドールジャパン プレジデント 2002年12月 グランドハイアット東京 入社 チーフコンシェルジュ 2011年3月 レ・クレドールジャパン 名誉会員(現任) 2014年4月 レ・クレドールインターナショナル 名誉会員(現任) 2015年4月 明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部 教授 2015年4月 同大学ホスピタリティ・ツーリズム総合研究所 研究員(現任) 2017年4月 同大学ホスピタリティ・ツーリズム総合研究所 所長 2023年6月 合同会社ケイプラス 代表社員(現任) 2024年6月 当社 取締役(現任) 2025年4月 明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部 特任教授(現任)	(注) 4	-
常勤監査役	松尾 欣治	1962年2月11日生	1984年4月 株式会社三和銀行 入行 1990年2月 同行 ロンドン支店 2005年1月 三菱UFJ銀行 津島支店長 2007年5月 同行 麻布支社長 2009年4月 同行 融資部モデル審査室長兼融資部部長 2010年5月 同行 大宮支社長 2012年5月 日本ビジネスリース株式会社 出向 経営企画部長 2014年5月 エムエステイ保険サービス株式会社 入社 2014年10月 MSTリスクコンサルティング株式会社 出向 営業部長 2019年4月 同社 常務取締役 2024年6月 当社 常勤監査役(現任) 2024年6月 株式会社WDI JAPAN監査役(現任)	(注) 6	-
監査役	藤本 幸一	1955年2月6日生	1977年4月 株式会社東京銀行 入行 1991年2月 東京銀行信託会社(ニューヨーク) 2001年9月 東京三菱銀行 相模原支社長 2007年1月 株式会社日本格付研究所 入社 2010年7月 同社 執行役員 2015年4月 同社 上席執行役員 2016年9月 同社 チーフ・コンプライアンス・オフィサー 2020年6月 当社 監査役(現任) 2020年6月 株式会社WDI JAPAN 監査役	(注) 6	-
監査役	田島 弓子	1967年8月27日生	1991年8月 リードエグジビジョンジャパン株式会社 入社 1995年7月 ソフトバンクフォーラム株式会社 入社 1999年11月 マイクロソフト株式会社 入社 2004年3月 レバレジコンサルティング株式会社 取締役(現任) 2008年1月 プラマント株式会社 代表取締役(現任) 2017年6月 当社 監査役(現任) 2020年4月 成蹊大学経営学部 客員教授 2021年6月 サイバートラスト株式会社 社外取締役(現任)	(注) 7	-
計					764,540

- (注) 1. 代表取締役社長清水謙は取締役会長清水洋二の二男であります。
2. 取締役中谷巖及び取締役阿部佳は、社外取締役であります。
3. 常勤監査役松尾欣治、監査役藤本幸一及び監査役田島弓子は、社外監査役であります。
4. 2024年6月25日開催の定時株主総会終結の時から、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。2026年6月26日開催の定時株主総会における決議事項である取締役選任議案が承認可決された場合、2026年6月26日開催の定時株主総会終結の時から、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとなります。
5. 2025年6月26日開催の定時株主総会終結の時から、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
6. 2024年6月25日開催の定時株主総会終結の時から、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
7. 2025年6月26日開催の定時株主総会終結の時から、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。

#### 社外役員の状況

当社の社外取締役は2名、社外監査役は3名であります。

当社は、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する明確な基準は定めておりません。しかし選任に際しては、経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣から独立した立場で社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できる人物を選任する方針としております。

社外取締役中谷巖氏は、株式会社不識庵の代表取締役であり、当社の株式を2,000株保有しておりますが、当社と兼職先との間に特別な関係はなく、その他の人的及び特別な利害関係を有しておりません。経営全般について客観的な立場から提言を行っております。

社外取締役阿部佳氏は、レ・クレドールジャパン及びレ・クレドールインターナショナルの名誉会員、明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部の特任教授、明海大学ホスピタリティ・ツーリズム総合研究所の研究員及び合同会社ケイプラスの代表社員であります。当社と兼職先との間に特別な関係はなく、その他の人的及び特別な利害関係を有しておりません。主に顧客サービス及び店舗開発について客観的な立場から提言を行っております。

社外監査役松尾欣治氏は、当社の完全子会社である株式会社WDI JAPANの監査役であります。その他の人的及び特別な利害関係を有しておりません。取締役の業務執行に対して、客観的な立場から監査を行っております。

社外監査役藤本幸一氏は、当社とは人的及び特別な利害関係を有しておりません。取締役の業務執行に対して、客観的な立場から監査を行っております。

社外監査役田島弓子氏は、ブラマンテ株式会社の代表取締役、レパレッジコンサルティング株式会社の取締役、サイバートラスト株式会社の社外取締役であります。当社と兼職先との間には特別な関係はなく、その他の人的及び特別な利害関係を有しておりません。取締役の業務執行に対して、客観的な立場から監査を行っております。

各社外取締役及び社外監査役は、一般株主と利益相反が生じる恐れのない、客観的・中立的立場から当社の経営に対して、それぞれの専門知識及び幅広く高度な経営に対する経験・見識等を活かした社外的観点からの監督または監査及び的確な提言等を行っており、取締役会の意思決定及び業務執行の妥当性・適正性を確保する機能・役割を担っております。

当社は、社外取締役中谷巖氏、社外取締役阿部佳氏、社外監査役松尾欣治氏、社外監査役藤本幸一氏及び社外監査役田島弓子氏の5名を、経営陣から独立した存在であると判断したため、独立役員として指定しております。

#### 社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、取締役会において、内部監査・監査役監査・会計監査の結果や財務報告に係る内部統制の評価結果の報告を受けています。社外監査役につきましても、同様の報告を受けるほか、会計監査人との連携を図っております。

内部統制部門は、必要に応じ、取締役会において、内部統制の整備に関する企画・立案の内容や運用状況を社外取締役及び社外監査役に報告しております。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

当社における監査役監査は、監査役3名で構成され、3名とも社外監査役であります。

各監査役は、監査役監査基準に基づき監査を行っており、全ての取締役会に出席し意見を述べるほか、常勤監査役は社内の重要な会議にも随時出席し、必要に応じて担当部門に対するヒアリングを行い、担当部署からの報告を受け、主要な稟議書の閲覧を通じて、経営全般及び個別案件に関して業務執行の監査を行っております。また、常勤監査役は内部監査室の各店舗の監査に同行するなどし、本社各部門並びに主要な店舗の業務及び財産の状況を調査するなど、日常的に監査を実施し、結果を随時、監査役会に報告しています。

監査役会は、月次で開催されるほか、必要に応じて随時開催しています。監査役会においては、常勤監査役の選定、監査計画の策定、監査報告書の作成、会計監査人の選任、会計監査人の報酬、定時株主総会付議議案、決算・配当等に関して審議しています。

また、会計監査人からは期初に監査計画の説明を受け、期中に監査状況を聴取し、期末に監査報告を受けるなど、密接な連携を図っております。

常勤監査役松尾欣治氏は、金融機関において多くの要職を歴任しており、財務及び会計に関する経験と幅広い知見を有するものであります。監査役藤本幸一氏は、他社においてコンプライアンス、リスク管理等の責任者を歴任しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。また、監査役田島弓子氏は、長年にわたる経営者としての豊富な経験と幅広い知見を有するものであります。

当事業年度において、当社は監査役会を15回開催しており、個々の監査役の出席状況は以下のとおりです。

役職名	氏名	出席状況（出席率）
常勤監査役（社外）	松尾 欣治	15回/15回（100.0%）
監査役（社外）	藤本 幸一	15回/15回（100.0%）
監査役（社外）	田島 弓子	15回/15回（100.0%）

内部監査の状況

当社における内部監査は、代表取締役の直轄の機関として内部監査室（内部監査室長以下2名体制）が行っております。内部監査室は、業務執行の適切性・効率性を確保するために、通常の業務執行から独立した機関として構成されており、内部監査規程及び年次計画に基づいて、各部門の業務が経営方針、社内諸規程並びに関係諸法令に準拠しているかどうか重点をおいた書類監査及び実地監査を実施しております。また、内部統制についても内部監査室が担当しております。

内部監査室と監査役は随時連携を取って監査を実施しており、業務執行に関しての問題点を発見した場合は互いに連携を密にし、問題の解決に当たっております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

太陽有限責任監査法人

b. 継続監査期間

16年間

c. 監査業務を執行した公認会計士の氏名

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 高橋 康之  
指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 山口 昌良

d. 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 6名 その他 13名

e . 監査法人の選定方針と理由

会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める事項に該当すると認められる場合には、監査役全員の同意に基づき監査役会が会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

また、会計監査人が職務を適正に遂行することが困難と認められる場合には、監査役会は会計監査人の解任または不再任に関する株主総会の議案の内容を決定いたします。

f . 監査役及び監査役会による監査法人の評価

当社の監査役及び監査役会は、監査役会で定めた評価基準に基づき、監査法人に対して評価を行っております。監査法人の専門性、独立性、品質管理体制及び監査報酬等を総合的に評価しております。

監査報酬の内容等

a . 監査公認会計士等に対する報酬の内容

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）
提出会社	22	-	24	-
連結子会社	-	-	-	0
計	22	-	24	0

当連結会計年度の連結子会社における非監査業務の内容は、原本証明業務であります。

b . 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬（ a . を除く ）

該当事項はありません。

c . その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d . 監査報酬の決定方針

該当事項はありませんが、監査時間等を勘案した上で決定しております。

e . 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠などが当社の事業規模や事業内容に適切であるかどうかについて必要な検証を行った上で、会計監査人の報酬等の額について同意の判断を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社は、取締役会において、取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針を決議しております。

また、当該事業年度の取締役の個人別の報酬等の内容の決定に当たっては、株主総会でご承認いただいた報酬限度内で取締役会決議により代表取締役社長に一任するに当たり、決定方針に記載の内容を十分に尊重して決定するよう要請した上で一任しており、その内容は決定方針に沿うものであると判断しております。

取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針の内容は次のとおりです。

a. 基本方針

取締役の報酬は、固定報酬としての基本報酬及び非金銭報酬としての株式報酬により構成するものとする。

基本報酬と非金銭報酬の構成割合は、他社の動向や取締役報酬の水準等を踏まえ、取締役の報酬全体として企業価値向上のための適切なインセンティブとなるように割合を決定する。

b. 基本報酬に関する方針

基本報酬は、月ごとに固定額を支払うもので、各取締役の職責・担当領域の規模、会社の業績等に基づき、その金額を設定するものとする。

c. 非金銭報酬等に関する方針

非金銭報酬は、当社の取締役（社外取締役を除く。）に対し株価変動のメリットとリスクを株主の皆様と共有し、株価上昇及び企業価値向上への貢献意欲を従来以上に高めるため、株主総会で決定した報酬総額の限度内において予め定められた額で、各取締役の役位に応じた数の当社普通株式を用いた譲渡制限付株式を交付するものとする。

なお、譲渡制限付株式の交付の時期や条件は、その目的に合うものを決定する。

d. 個人別の報酬等の内容についての決定に関する事項

取締役の個人別の基本報酬及び非金銭報酬の具体的金額は、取締役会決議に基づき委任を受けた代表取締役社長が、本方針に沿って決定するものとする。

なお、株主総会で決議いただいている報酬限度額は次のとおりであり、本有価証券報告書提出日現在において、定款で定める取締役の員数は10名以内、監査役は5名以内であります。

<基本報酬>

1997年5月29日開催の定時株主総会において、取締役の報酬限度額は年額200百万円以内、監査役の報酬限度額は年額50百万円以内と決議されております。

<非金銭報酬（上記報酬とは別枠の譲渡制限付株式報酬）>

2022年6月28日開催の定時株主総会において、取締役（社外取締役を除く）に対して譲渡制限付株式の付与のために支給する報酬限度額は年額50百万円以内と決議されております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		固定報酬	業績連動報酬	譲渡制限付 株式報酬	左記のうち、 非金銭報酬等	
取締役 (社外取締役を除く)	135,504	131,640	-	3,864	3,864	4
監査役 (社外監査役を除く)	-	-	-	-	-	-
社外役員	28,800	28,800	-	-	-	5

(注) 1. 上表には使用人兼務取締役の使用人給与相当額が含まれておりません。

2. 譲渡制限付株式報酬の総額は、当事業年度に費用計上した額であります。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は専ら株式の価値の変動または株式に係る配当によって利益を受けることを目的とする場合を「純投資目的である投資株式」、それ以外を目的とする場合を「純投資目的以外の目的である投資株式」として区分します。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

区分	当事業年度		前事業年度	
	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	-	-	-	-
非上場株式以外の株式	1	143,330	1	165,000

区分	当事業年度		
	受取配当金の 合計額(千円)	売却損益の 合計額(千円)	評価損益の 合計額(千円)
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	-	-	-

## 5【従業員の状況等】

## (1)【人材戦略に関する基本方針等】

当社グループは、「ダイニングカルチャーで世界をつなぐ」という企業理念のもと、レストラン事業を通じて「人と人」及び「文化と文化」を結びつける役割を担っております。

企業の持続的な成長を実現するためには、経営環境の変化に適切に対応し、組織力の強化を図ることが重要であると認識しております。

このような認識のもと、当社では人事制度を「キャリア・ディベロップメント・プログラム(CDP)」と位置づけ、従業員の主体的なキャリア形成を支援するとともに、評価・育成を通じた「人財を育てる仕組み」として運用しております。

また、従業員給与等の決定方針については、固定報酬としての基本給及び業績連動報酬としての賞与により構成しております。年齢、性別、勤続年数等に偏ることなく、職務や役割に基づいた処遇を行うことで、従業員の主体的な挑戦と成長の促進を図っております。

## (2)【従業員の状況】

連結会社の状況

セグメント別の従業員数は以下のとおりであります。

2026年3月31日現在

報告セグメントの名称	従業員数(人)
日本	2,014 (2,124)
北米	230 (251)
ミクロネシア	39 (63)
アジア	103 (-)
合計	2,386 (2,438)

- (注) 1. 従業員数は就業員数であり、臨時雇用者数は( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。  
2. 海外子会社の従業員数については、2025年12月31日現在の人数を用いております。

事業部門別の従業員数は以下のとおりであります。

2026年3月31日現在

事業部門の名称	従業員数(人)
ウルフギャング・ステーキハウス事業部	490 (350)
カプリチョーザ事業部	558 (960)
ハードロックカフェ事業部	158 (184)
ティム・ホー・ワン事業部	242 (248)
ババ・ガンブ・シュリンプ事業部	142 (116)
その他事業部	715 (579)
全社(共通)	81 (1)
合計	2,386 (2,438)

- (注) 1. 従業員数は就業員数であり、臨時雇用者数は( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。  
2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定の事業部門に区分できない管理部門に所属しているものであります。  
3. 海外子会社の従業員数については、2025年12月31日現在の人数を用いております。

提出会社の状況

2026年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)	平均年間給与の 対前事業年度増減率 (%)
5 (-)	41.5	10.7	6,512,416	0.5

- (注) 1. 従業員数は就業員数であり、臨時雇用者数は( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。  
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
3. 提出会社の属する報告セグメントは、「日本」であります。

最大人員会社の状況

株式会社WDI JAPAN

2026年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)	平均年間給与の 対前事業年度増減率 (%)
2,009 (2,222)	42.3	6.5	6,002,896	2.5

- (注) 1. 従業員数は就業員数であり、臨時雇用者数は( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。  
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
3. 最大人員会社の属する報告セグメントは、「日本」であります。

労働組合の状況

当社においては、労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しており、特記する事項はございません。

管理的地位にある労働者に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の額の差異

当事業年度					
名称	管理的地位にある労働者に占める女性労働者の割合 (%) (注) 1	男性労働者の育児休業取得率 (%) (注) 2	労働者の男女の賃金の額の差異 (%) (注) 1		
			全労働者	正規雇用労働者	パート・有期労働者
株式会社WDI JAPAN	8.0	61.5	74.7	77.0	93.8

(注) 1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。

- 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の6第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。
- 提出会社は、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)及び「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定による公表義務の対象ではないため、記載を省略しております。

(参考)

男女の賃金差異(正規雇用労働者における年齢別の差異)

年齢	前連結会計年度	当連結会計年度
20歳未満	98.6%	93.4%
30歳未満	93.3%	91.4%
40歳未満	87.9%	85.7%
50歳未満	86.8%	85.2%
50歳以上	74.2%	84.1%
合計	78.9%	77.0%

(注) 男女の賃金差異は、女性労働者の平均年間賃金÷男性労働者の平均年間賃金×100%として算出しています。

## 第5【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2025年4月1日から2026年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2025年4月1日から2026年3月31日まで)の財務諸表について、太陽有限責任監査法人による監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組について

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組を行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、会計や税務に係る各種セミナーに参加しております。

## 1 【連結財務諸表等】

## (1) 【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,152,618	5,776,476
売掛金	992,548	1,257,974
棚卸資産	<sup>1</sup> 1,157,634	<sup>1</sup> 1,288,098
預け金	734,161	748,084
その他	424,066	489,317
貸倒引当金	3,967	4,456
流動資産合計	8,457,062	9,555,495
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	10,556,912	10,556,019
減価償却累計額	5,706,918	5,728,595
建物及び構築物(純額)	<sup>2</sup> 4,849,993	<sup>2</sup> 4,827,424
工具、器具及び備品	3,537,487	3,961,925
減価償却累計額	2,916,301	3,019,117
工具、器具及び備品(純額)	<sup>2</sup> 621,185	<sup>2</sup> 942,808
土地	<sup>2</sup> 2,490,358	<sup>2</sup> 2,490,358
建設仮勘定	36,716	64,508
使用権資産	5,120,659	5,077,800
減価償却累計額	1,625,871	1,856,723
使用権資産(純額)	3,494,787	3,221,076
その他	41,467	40,452
減価償却累計額	24,381	30,274
その他(純額)	17,086	10,178
有形固定資産合計	11,510,128	11,556,355
無形固定資産		
その他	<sup>2</sup> 140,882	<sup>2</sup> 138,779
無形固定資産合計	140,882	138,779
投資その他の資産		
敷金及び保証金	1,720,032	1,891,770
投資有価証券	<sup>3</sup> 318,096	<sup>3</sup> 232,595
繰延税金資産	162,497	304,888
その他	241,417	306,164
貸倒引当金	323	324
投資その他の資産合計	2,441,720	2,735,093
固定資産合計	14,092,731	14,430,228
資産合計	22,549,794	23,985,723

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	980,876	1,039,596
1年内返済予定の長期借入金	2,745,677	2,126,794
未払金	1,098,550	1,713,875
未払費用	684,570	741,607
未払法人税等	401,039	624,115
賞与引当金	196,495	214,981
販売促進引当金	44,600	46,700
資産除去債務	26,800	85,800
リース債務	655,743	521,355
その他	362,790	367,329
流動負債合計	5,197,143	6,617,156
固定負債		
長期借入金	2,431,072	2,479,279
繰延税金負債	1,095,583	1,088,530
退職給付に係る負債	2,237	1,846
リース債務	3,665,487	3,354,224
その他	169,466	188,854
固定負債合計	9,242,847	9,431,735
負債合計	14,439,991	16,048,891
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	1,143,124	1,151,119
利益剰余金	5,926,836	6,056,390
自己株式	173,622	149,273
株主資本合計	6,946,338	7,108,236
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	105,894	91,901
為替換算調整勘定	625,361	633,200
その他の包括利益累計額合計	519,467	541,298
非支配株主持分	1,682,932	1,369,894
純資産合計	8,109,802	7,936,831
負債純資産合計	22,549,794	23,985,723

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
売上高	31,952,794	34,518,241
売上原価	9,083,539	10,012,706
売上総利益	22,869,255	24,505,535
販売費及び一般管理費	<sup>1</sup> 22,120,006	<sup>1</sup> 23,232,674
営業利益	749,248	1,272,860
営業外収益		
受取利息	8,421	14,156
為替差益	-	220,929
持分法による投資利益	2,117	-
受取還付金	31,415	-
その他	27,028	44,861
営業外収益合計	68,982	279,947
営業外費用		
支払利息	68,515	91,569
為替差損	38,073	-
持分法による投資損失	-	59,839
その他	10,672	15,418
営業外費用合計	117,260	166,827
経常利益	700,969	1,385,979
特別利益		
固定資産売却益	<sup>2</sup> 63,121	<sup>2</sup> 15,315
資産除去債務戻入益	-	10,242
受取立退料	-	<sup>3</sup> 313,000
投資有価証券売却益	638,752	-
子会社株式売却益	<sup>4</sup> 833,939	<sup>4</sup> 46,806
リース解約益	<sup>5</sup> 153,927	<sup>5</sup> 93,662
債務免除益	22,716	-
特別利益合計	1,712,456	479,026
特別損失		
減損損失	<sup>6</sup> 737,009	<sup>6</sup> 974,339
店舗閉鎖損失	<sup>7</sup> 12,469	<sup>7</sup> 95,229
その他	95,799	7,778
特別損失合計	845,278	1,077,346
税金等調整前当期純利益	1,568,147	787,659
法人税、住民税及び事業税	727,931	852,941
法人税等調整額	4,519	141,765
法人税等合計	732,451	711,175
当期純利益	835,696	76,484
非支配株主に帰属する当期純損失( )	94,309	159,398
親会社株主に帰属する当期純利益	930,006	235,882

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
当期純利益	835,696	76,484
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	105,894	13,992
為替換算調整勘定	73,221	18,072
その他の包括利益合計	32,672	32,064
包括利益	868,369	44,419
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	953,527	214,051
非支配株主に係る包括利益	85,158	169,631

## 【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	50,000	1,131,084	5,090,477	199,309	6,072,253
当期変動額					
剰余金の配当	-	-	93,647	-	93,647
連結子会社の増資による持分の増減	-	837	-	-	837
親会社株主に帰属する当期純利益	-	-	930,006	-	930,006
自己株式の取得	-	-	-	141	141
自己株式の処分	-	11,202	-	25,827	37,030
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	12,039	836,358	25,686	874,084
当期末残高	50,000	1,143,124	5,926,836	173,622	6,946,338

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	-	542,988	542,988	1,845,822	7,375,087
当期変動額					
剰余金の配当	-	-	-	-	93,647
連結子会社の増資による持分の増減	-	-	-	-	837
親会社株主に帰属する当期純利益	-	-	-	-	930,006
自己株式の取得	-	-	-	-	141
自己株式の処分	-	-	-	-	37,030
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	105,894	82,372	23,521	162,890	139,369
当期変動額合計	105,894	82,372	23,521	162,890	734,715
当期末残高	105,894	625,361	519,467	1,682,932	8,109,802

当連結会計年度（自 2025年4月1日 至 2026年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	50,000	1,143,124	5,926,836	173,622	6,946,338
当期変動額					
剰余金の配当	-	-	106,328	-	106,328
連結子会社の増資による持分の増減	-	-	-	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	-	-	235,882	-	235,882
自己株式の取得	-	-	-	137	137
自己株式の処分	-	7,995	-	24,486	32,482
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	7,995	129,553	24,348	161,897
当期末残高	50,000	1,151,119	6,056,390	149,273	7,108,236

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	105,894	625,361	519,467	1,682,932	8,109,802
当期変動額					
剰余金の配当	-	-	-	-	106,328
連結子会社の増資による持分の増減	-	-	-	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	-	-	-	-	235,882
自己株式の取得	-	-	-	-	137
自己株式の処分	-	-	-	-	32,482
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	13,992	7,839	21,831	313,037	334,869
当期変動額合計	13,992	7,839	21,831	313,037	172,971
当期末残高	91,901	633,200	541,298	1,369,894	7,936,831

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	1,568,147	787,659
減価償却費	776,014	786,710
賞与引当金の増減額 ( は減少 )	17,242	18,486
貸倒引当金の増減額 ( は減少 )	3,548	489
受取利息	8,421	14,156
支払利息	68,515	91,569
為替差損益 ( は益 )	34,086	225,928
持分法による投資損益 ( は益 )	2,117	59,839
投資有価証券売却損益 ( は益 )	638,752	-
固定資産売却損益 ( は益 )	61,268	15,085
店舗閉鎖損失	12,469	95,229
固定資産除却損	2,452	7,547
減損損失	737,009	974,339
資産除去債務戻入益	-	10,242
債務免除益	22,716	-
その他の特別損益 ( は益 )	153,927	93,662
受取立退料	-	313,000
子会社株式売却損益 ( は益 )	833,939	46,806
売上債権の増減額 ( は増加 )	23,446	268,919
棚卸資産の増減額 ( は増加 )	128,740	138,190
その他の流動資産の増減額 ( は増加 )	7,867	47,074
その他の固定資産の増減額 ( は増加 )	2,631	22,756
仕入債務の増減額 ( は減少 )	10,604	61,900
その他の流動負債の増減額 ( は減少 )	250,139	468,009
その他の固定負債の増減額 ( は減少 )	13,560	25,057
その他	48,700	60,639
小計	1,152,911	2,120,377
利息の受取額	8,421	14,156
利息の支払額	69,847	95,830
法人税等の支払額	731,849	630,989
法人税等の還付額	0	1,328
立退料の受取額	-	313,000
その他	28,586	-
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>331,049</b>	<b>1,722,042</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	1,590,422	1,843,148
有形固定資産の売却による収入	69,192	15,988
有形固定資産の除却による支出	-	14,912
無形固定資産の取得による支出	19,260	27,924
投資有価証券の取得による支出	134,024	-
投資有価証券の売却による収入	656,064	-
連結の範囲の変更を伴う 子会社株式の売却による収入	2,933,069	2,19,333
長期貸付けによる支出	-	9,410
長期貸付金の回収による収入	2,025	1,445
敷金及び保証金の差入による支出	125,475	207,993
敷金及び保証金の回収による収入	11,764	23,454
預り保証金の返還による支出	464	6,328
預り保証金の受入による収入	895	1,339
その他の投資の取得による支出	52,260	66,571
その他	666	6,689
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>249,560</b>	<b>2,108,037</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	560,000	2,925,000
長期借入金の返済による支出	1,127,297	1,918,569
自己株式の取得による支出	141	137
配当金の支払額	93,575	106,011
非支配株主からの払込みによる収入	7,597	14,481
非支配株主への配当金の支払額	4,967	150,000
連結の範囲の変更を伴わない 子会社株式の取得による支出	9,219	-
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>667,603</b>	<b>764,762</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	202,390	245,090
<b>現金及び現金同等物の増減額（は減少）</b>	<b>788,505</b>	<b>623,857</b>
現金及び現金同等物の期首残高	5,941,124	5,152,618
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>1 5,152,618</b>	<b>1 5,776,476</b>

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 16社

主要な連結子会社名

株式会社W D I JAPAN

W D I International, Inc.

P.T. W D I Indonesia

W D I UK Ltd.

株式会社Wolfgang's Steakhouse JAPAN

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社及び関連会社数 3社

主要な持分法適用会社名

株式会社W Teppan Ginza 1chome

(2) 持分法適用会社のうち、事業年度が連結会計年度と異なる会社については、各社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。

3. 連結の範囲又は持分法の適用の範囲の変更に関する事項

連結範囲の変更

当連結会計年度において売却いたしましたFLORA PLANT KITCHEN HOLDING, LLC及びFLORA MIAMI, LLCを連結範囲から除外しております。

4. 連結子会社の事業年度等に関する事項

日本国内以外の連結子会社の決算日は、全て12月31日であります。

連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しておりますが、連結決算日との間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

5. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

その他有価証券

a. 市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

b. 市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

棚卸資産

a. 商品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。また在外連結子会社は先入先出法による低価法、または総平均法による低価法を採用しております。

b. 原材料

主に最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。また在外連結子会社は先入先出法による低価法を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(使用権資産を除く)

定率法を、また在外連結子会社は定額法を採用しております。(但し、当社及び国内連結子会社は1998年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。)

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物・・・2～65年

工具、器具及び備品・・・2～20年

無形固定資産

フランチャイズ権については、契約期間に基づき償却する方法を採用しております。

また、ソフトウェア(自社利用)については、社内における見込利用可能期間(3～5年)に基づく定額法を採用しております。

使用権資産

主に米国会計基準を採用している在外連結子会社においてASC Topic842「リース」を適用しております。

これにより、リースの借手については原則として全てのリース取引を使用権資産として計上しており、減価償却方法は定額法を採用しております。

(3)重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当連結会計年度負担分を計上しております。

販売促進引当金

主に販売促進を目的とするポイント制度に基づき、顧客へ付与したポイントの利用に備えるため、当連結会計年度末において将来利用されると見込まれる額を計上しております。

(4)退職給付に係る会計処理の方法

一部の在外連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5)重要な収益及び費用の計上基準

約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

当社グループは、飲食サービスの提供を主な事業として営んでおり、顧客からの注文に基づき料理を提供した時点で履行義務が充足されると判断しており、当該サービス提供時点で収益を認識しております。

また、一部の業態においては、衣料品、雑貨等の販売を行っております。このような物品の販売については、物品を引渡した時点で履行義務が充足されると判断しており、当該物品の引渡時点で収益を認識しております。

なお、他社が運営するカスタマー・ロイヤリティ・プログラムに係るポイント負担金について、ポイント負担金を除いた金額で収益を認識する方法を採用しております。

(6)重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外連結子会社等の資産及び負債は、在外連結子会社等の決算日における直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。

(7)連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(重要な会計上の見積り)

固定資産の減損

(1)当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(単位：千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
減損損失	737,009	974,339

(2)識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社グループは、原則として、事業用資産については、店舗単位でグルーピングを行っており、当該単位で減損の兆候、減損損失の認識の判定及び減損損失の測定を行っております。

当資産グループの回収可能価額は、市場価値に基づいた正味売却価額または使用価値により測定しております。

正味売却価額は、適切に市場価格を反映していると考えられる指標等を基礎として算定した価額であります。使用価値は、店舗ごとに作成された将来の事業計画を基礎として見積もった将来キャッシュ・フローに基づき算定しております。これらの算定においては、正味売却価額における指標等の決定方法や、使用価値における対象となる店舗の状況に応じた来客見込み数を含む売上高の見通し、原材料価格や人件費の変動見通しなどの仮定が含まれております。

減損の兆候、認識の判定及び測定に当たっては慎重に検討しておりますが、事業計画や市場環境の変化により、その見積額の前提とした条件や仮定に変更が生じた場合、翌連結会計年度の連結財務諸表において、当社グループの財政状態及び経営成績に重要な影響を与える可能性があります。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(未適用の会計基準等)

- ・「リースに関する会計基準」(企業会計基準第34号 2024年9月13日 企業会計基準委員会)
- ・「リースに関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第33号 2024年9月13日 企業会計基準委員会) 等

1. 概要

企業会計基準委員会において、日本基準を国際的に整合性のあるものとする取組みの一環として、借手の全てのリースについて資産及び負債を認識するリースに関する会計基準の開発に向けて、国際的な会計基準を踏まえた検討が行われ、基本的な方針として、IFRS第16号の単一の会計処理モデルを基礎とするものの、IFRS第16号の全ての定めを採り入れるのではなく、主要な定めのみを採り入れることにより、簡素で利便性が高く、かつ、IFRS第16号の定めを個別財務諸表に用いても、基本的に修正が不要となることを目指したリース会計基準等が公表されました。

借手の会計処理として、借手のリースの費用配分の方法については、IFRS第16号と同様に、リースがファイナンス・リースであるかオペレーティング・リースであるかにかかわらず、全てのリースについて使用権資産に係る減価償却費及びリース負債に係る利息相当額を計上する単一の会計処理モデルが適用されます。

2. 適用予定日

2028年3月期の期首から適用します。

3. 当該会計基準等の適用による影響

「リースに関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり、

- ・「後発事象に関する会計基準」(企業会計基準第41号 2026年1月9日 企業会計基準委員会)
- ・「後発事象に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第35号 2026年1月9日 企業会計基準委員会)

1. 概要

「後発事象に関する会計基準」等は、後発事象の定義、会計処理及び開示等を取り扱う包括的な会計基準を設定することを優先的な課題とし、日本公認会計士協会 監査・保証基準委員会 監査基準報告書560実務指針第1号「後発事象に関する監査上の取扱い」で示されている会計に関する内容を原則として踏襲して企業会計基準委員会に移管することを基本的な方針として、表現の見直し及び後発事象の評価期間の整理を行うとともに、財務諸表の公表の承認に関する注記を新たに求める等、後発事象に関する会計処理及び開示について定めたものであります。

2. 適用予定日

2028年3月期の期首から適用します。

(連結貸借対照表関係)

1 棚卸資産の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
商品	307,038千円	364,077千円
原材料及び貯蔵品	850,596	924,020
計	1,157,634	1,288,098

2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
建物及び構築物	1,263,502千円	1,218,579千円
工具、器具及び備品	0	0
土地	2,258,567	2,258,567
無形固定資産	48,000	48,000
計	3,570,070	3,525,147

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
1年内返済予定の長期借入金	359,700千円	459,700千円
長期借入金	1,580,300	1,480,300
計	1,940,000	1,940,000

3 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
投資有価証券(株式)	153,096千円	89,265千円

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
給与手当及び雑給	8,797,122千円	9,260,560千円
賃借料	2,884,628	3,105,428
減価償却費	729,194	739,890
賞与引当金繰入額	196,495	214,981

2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
建物及び構築物	17,975千円	- 千円
工具、器具及び備品	42,881	47
その他	2,265	15,268
計	63,121	15,315

3 受取立退料

本社ビルの明け渡しに伴い、「受取立退料」を特別利益に計上しております。

4 子会社株式売却益

関係会社の持分譲渡に伴う利益を「子会社株式売却益」へ計上しております。前期においては、米国の関係会社である、GKBH Restaurant, LLCの全持分譲渡に伴うもの、当期においては、米国の関係会社である、FLORA PLANT KITCHEN HOLDING, LLCの全持分譲渡に伴うものであります。

5 リース解約益

米国の関係会社において、店舗の売却によるリース契約の解除に伴う利益を「リース解約益」として特別利益に計上しております。

6 減損損失

当社グループは以下の減損損失を計上いたしました。

前連結会計年度(自2024年4月1日 至2025年3月31日)

場所	用途	種類
横浜市西区、神奈川県藤沢市	事業用資産	建物及び構築物、工具、器具及び備品
米国フロリダ州、テキサス州、ハワイ州等	事業用資産	建物及び構築物、工具、器具及び備品 使用権資産等

当社グループでは、原則として事業用資産については店舗単位でグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、営業活動から生ずるキャッシュ・フローが継続してマイナスであり、当初予定していた収益を将来において見込めない店舗、閉店に伴う資産の除却が見込まれる店舗及び閉鎖した店舗等が存在したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し当該減少額を減損損失(737,009千円)として特別損失に計上いたしました。その内訳は建物及び構築物503,082千円、工具、器具及び備品222,491千円、使用権資産2,820千円及び投資その他の資産等8,615千円であります。なお、当資産グループの回収可能価額は市場価値に基づいた正味売却価額または使用価値により測定し、使用価値は将来キャッシュ・フローを4.5%~10.5%で割引いて算定しております。

当連結会計年度(自2025年4月1日 至2026年3月31日)

場所	用途	種類
東京都渋谷区、横浜市西区、名古屋市中村区 大阪市北区	事業用資産	建物及び構築物、工具、器具及び備品等
米国フロリダ州、テキサス州、ハワイ州	事業用資産	建物及び構築物、工具、器具及び備品
インドネシア共和国バリ州	事業用資産	建物及び構築物、工具、器具及び備品 使用権資産等

当社グループでは、原則として事業用資産については店舗単位でグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、営業活動から生ずるキャッシュ・フローが継続してマイナスであり、当初予定していた収益を将来において見込めない店舗、閉店に伴う資産の除却が見込まれる店舗及び閉鎖した店舗等が存在したた

め、帳簿価額を回収可能価額まで減額し当該減少額を減損損失（974,339千円）として特別損失に計上いたしました。その内訳は建物及び構築物904,773千円、工具、器具及び備品37,381千円、使用権資産19,637千円及び投資その他の資産等12,548千円であります。なお、当資産グループの回収可能価額は市場価値に基づいた正味売却価額または使用価値により測定し、使用価値は将来キャッシュ・フローを7.1%～7.6%で割引いて算定しております。

7 店舗閉鎖損失

店舗の閉鎖に伴い発生する原状回復費用や契約違約金等の損失を「店舗閉鎖損失」として特別損失に計上しております。

（連結包括利益計算書関係）

その他の包括利益に係る組替調整額並びに法人税等及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	161,040千円	21,670千円
組替調整額	-	-
法人税等及び税効果調整前	161,040	21,670
法人税等及び税効果額	55,146	7,677
その他有価証券評価差額金	105,894	13,992
為替換算調整勘定：		
当期発生額	72,875	8,760
組替調整額	345	9,311
法人税等及び税効果調整前	73,221	18,072
法人税等及び税効果額	-	-
為替換算調整勘定	73,221	18,072
その他の包括利益合計	32,672	32,064

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自2024年4月1日 至2025年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	6,331,920	-	-	6,331,920
合計	6,331,920	-	-	6,331,920
自己株式				
普通株式	88,745	41	11,500	77,286
合計	88,745	41	11,500	77,286

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加41株は単元未満株式の買取による増加、減少11,500株は譲渡制限付株式報酬としての処分の実施による減少であります。

2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2024年6月25日 定時株主総会	普通株式	93,647	利益剰余金	15	2024年3月31日	2024年6月26日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2025年6月26日 定時株主総会	普通株式	106,328	利益剰余金	17	2025年3月31日	2025年6月27日

当連結会計年度(自2025年4月1日 至2026年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	6,331,920	-	-	6,331,920
合計	6,331,920	-	-	6,331,920
自己株式				
普通株式	77,286	44	10,900	66,430
合計	77,286	44	10,900	66,430

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加44株は単元未満株式の買取による増加、減少10,900株は譲渡制限付株式報酬としての処分の実施による減少であります。

2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2025年6月26日 定時株主総会	普通株式	106,328	利益剰余金	17	2025年3月31日	2025年6月27日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

次の剰余金の配当に関する事項は、2026年6月26日開催予定の定時株主総会の決議事項となっております。

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2026年6月26日 定時株主総会	普通株式	106,513	利益剰余金	17	2026年3月31日	2026年6月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
現金及び預金勘定	5,152,618千円	5,776,476千円
現金及び現金同等物	5,152,618	5,776,476

2 株式の売却により連結子会社でなくなった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

株式の売却によりGKBH Restaurant, LLCが連結子会社でなくなったことに伴う売却時の資産及び負債の内訳並びにGKBH Restaurant, LLCの株式の売却価額と売却による収入は次のとおりであります。

流動資産	67,571 千円
固定資産	334,977
流動負債	103,753
固定負債	145,914
非支配株主持分	78,525
株式売却益	833,939
為替換算調整勘定	345
株式の売却価額	908,640
現金及び現金同等物	24,429
差引：売却による収入	933,069

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

株式の売却によりFLORA PLANT KITCHEN HOLDING, LLCが連結子会社でなくなったことに伴う売却時の資産及び負債の内訳並びにFLORA PLANT KITCHEN HOLDING, LLCの株式の売却価額と売却による収入は次のとおりであります。

流動資産	6,036 千円
固定資産	82,113
流動負債	32,918
固定負債	81,269
株式売却益	46,806
為替換算調整勘定	9,311
株式の売却価額	30,080
現金及び現金同等物	10,746
差引：売却による収入	19,333

(リース取引関係)

1. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
1年内	438,228	537,107
1年超	863,720	1,271,424
合計	1,301,949	1,808,531

(注) 主に米国会計基準を採用している在外連結子会社において、ASC Topic842「リース」を適用していること等から、該当する連結子会社に係る未経過リース料は含まれておりません。

2. 使用権資産

(1) 使用権資産の内容

主として、ASC Topic842「リース」適用子会社における事務所及び店舗の賃貸であります。

(2) 使用権資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「5. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

設備投資計画等に照らして、必要な資金（銀行借入）を調達しております。また、必要に応じて短期的な資金を銀行借入により調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金及び預け金は、顧客・取引先の信用リスクに晒されております。

敷金及び保証金は物件所有者の信用リスクに晒されております。

投資有価証券のうち、上場株式については主に市場価格の変動リスク及び発行体の信用リスクに、非上場株式については主に発行体の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金、未払金及び未払費用は、そのほとんどが2ヶ月以内の支払期日であります。

変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の債務不履行等に係るリスク）の管理

売掛金及び預け金については、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、入金状況を各事業部門に随時連絡しております。これにより、各取引先の財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、長期固定金利借入を利用しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

担当部署が適時に資金繰り計画を作成・更新する等の方法により管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については次のとおりであります。「現金及び預金」、「売掛金」、「預け金」、「買掛金」、「未払金」、「未払費用」及び「未払法人税等」については、現金であること及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

前連結会計年度（2025年3月31日）

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
投資有価証券	165,000	165,000	-
資産計	165,000	165,000	-
長期借入金 (1年内返済予定を含む)	5,055,750	4,744,531	311,219
負債計	5,055,750	4,744,531	311,219

当連結会計年度（2026年3月31日）

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
投資有価証券	143,330	143,330	-
資産計	143,330	143,330	-
長期借入金 (1年内返済予定を含む)	6,060,073	5,835,915	224,157
負債計	6,060,073	5,835,915	224,157

市場価格のない株式等は、「投資有価証券」には含めておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
非上場株式	153,096	89,265

(注) 1. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額  
前連結会計年度(2025年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
売掛金	992,548	-	-	-
預け金	734,161	-	-	-

当連結会計年度(2026年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
売掛金	1,257,974	-	-	-
預け金	748,084	-	-	-

(注) 2. 長期借入金、リース債務の連結決算日後の返済予定額  
前連結会計年度(2025年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金 (1年内返済予定を含む)	745,677	671,794	638,644	463,644	335,644	2,200,347
リース債務	655,743	619,249	497,584	402,954	384,189	1,761,511
合計	1,401,420	1,291,043	1,136,228	866,598	719,833	3,961,858

当連結会計年度(2026年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金 (1年内返済予定を含む)	1,261,794	1,223,644	1,048,644	920,644	270,856	1,334,491
リース債務	521,355	438,864	414,784	407,793	295,097	1,797,683
合計	1,783,149	1,662,508	1,463,428	1,328,437	565,953	3,132,174

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価: 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価: 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価: 観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品  
前連結会計年度(2025年3月31日)

(単位:千円)

区分	時価			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
投資有価証券 その他有価証券 株式	165,000	-	-	165,000

当連結会計年度（2026年3月31日）

（単位：千円）

区分	時価			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
投資有価証券 その他有価証券 株式	143,330	-	-	143,330

(2)時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品  
前連結会計年度（2025年3月31日）

（単位：千円）

区分	時価			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
長期借入金	-	4,744,531	-	4,744,531

当連結会計年度（2026年3月31日）

（単位：千円）

区分	時価			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
長期借入金	-	5,835,915	-	5,835,915

(注)時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

長期借入金

長期借入金の時価は、元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2025年3月31日)

(単位:千円)

	種類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	165,000	3,959	161,040
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	-	-	-

(注)非上場株式等(連結貸借対照表計上額153,096千円)については、市場価格がない株式等のため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(2026年3月31日)

(単位:千円)

	種類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	143,330	3,959	139,370
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	-	-	-

(注)非上場株式等(連結貸借対照表計上額89,265千円)については、市場価格がない株式等のため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位:千円)

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	656,064	638,752	-

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

一部の在外連結子会社において、退職一時金制度及び確定拠出制度を採用しております。

退職一時金制度の退職給付の算定に当たっては、期末自己都合要支給額を退職給付債務とする簡便法を採用しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月 31日)
退職給付に係る負債の期首残高	2,341千円	2,237千円
退職給付費用	525	134
退職給付の支払額	758	418
その他	128	107
退職給付に係る負債の期末残高	2,237	1,846

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2025年 3月 31日)	当連結会計年度 (2026年 3月 31日)
積立型制度の退職給付債務	- 千円	- 千円
年金資産	-	-
非積立型制度の退職給付債務	2,237	1,846
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,237	1,846
退職給付に係る負債	2,237	1,846
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,237	1,846

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度525千円 当連結会計年度134千円

3. 確定拠出制度

確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度11,517千円、当連結会計年度10,784千円であります。

( 税効果会計関係 )

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 ( 2025年 3月31日 )	当連結会計年度 ( 2026年 3月31日 )
繰延税金資産		
未払事業所税	6,739千円	7,786千円
未払事業税	37,505	61,931
賞与引当金	67,967	76,167
販売促進引当金	15,427	16,545
リース負債	-	680,381
専売契約一時金	2,193	1,757
未払費用	310,800	219,062
減価償却費損金算入限度超過額	216,083	360,308
繰越外国税額控除等	921,187	916,083
貸倒引当額	110	113
税務上の繰越欠損金(注)2	565,498	753,413
減損損失	406,737	440,316
投資有価証券評価損	1,864	1,910
資産除去債務	9,270	30,398
退職給付引当金	1,015	406
その他	16,546	66,999
繰延税金資産小計	2,578,948	3,633,581
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)2	565,498	751,771
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	1,829,454	1,997,662
評価性引当額小計(注)1	2,394,953	2,749,434
繰延税金資産合計	183,995	884,146
繰延税金負債		
固定資産圧縮損	1,061,934	1,049,110
その他有価証券評価差額金	55,146	47,469
使用権資産	-	571,209
その他	-	-
繰延税金負債合計	1,117,081	1,667,789
繰延税金資産の純額	933,085	783,642

(注)1. 評価性引当額が354,481千円増加しております。主な内容は海外子会社における繰越欠損金に関する評価性引当金が134,093千円、海外子会社における減価償却費損金算入限度超過額に関する評価性引当額が144,224千円増加したことに伴うものであります。

2. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度(2025年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越欠 損金(2)	-	-	-	-	-	565,498	565,498
評価性引当額	-	-	-	-	-	565,498	565,498
繰延税金資産	-	-	-	-	-	-	-

(2) 税務上の繰越欠損金は法定実効税率を乗じた額であります。

当連結会計年度（2026年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越欠 損金（2）	20,829	2,759	434	9,176	12,543	707,669	753,413
評価性引当額	20,829	2,759	434	9,176	12,543	706,027	751,771
繰延税金資産	-	-	-	-	-	1,641	1,641

（2）税務上の繰越欠損金は法定実効税率を乗じた額であります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
法定実効税率 (調整)	34.6%	34.6%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.5	1.3
住民税均等割	0.9	2.0
評価性引当額	0.7	33.8
税額控除	3.3	13.5
非支配株主損益	9.0	23.5
海外連結子会社の税率差異	2.0	10.2
国内会社の税率差異	1.3	3.9
海外連結子会社の税率変更による影響	1.3	0.3
前期申告調整	0.3	0.2
その他	0.6	1.8
税効果会計適用後の法人税等の負担率	46.7	90.3

（表示方法の変更）

前連結会計年度において、独立掲記していた「税率変更による影響」及び「連結子会社の税率差異」については、表示の明瞭性を高めるため、当連結会計年度より「海外連結子会社の税率変更による影響」及び「海外連結子会社の税率差異」に表示を変更しております。

また、前連結会計年度において、「その他」に含めていた「国内会社の税率差異」及び「前期申告調整」についても、表示の明瞭性を高めるため、当連結会計年度より独立掲記しております。

この表示変更の変更を反映させるため、前連結会計年度の注記の組替を行っております。

この結果、前連結会計年度の「その他」に表示しておりました0.9%は、「国内会社の税率差異」1.3%、「前期申告調整」0.3%、「その他」0.6%として組み替えております。

(資産除去債務関係)

1. 資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

店舗用施設の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

2. 連結貸借対照表に計上しているもの以外の資産除去債務

(1) 当該資産除去債務の金額を連結貸借対照表に計上していない旨

退去の意思決定を行っていない店舗及び事務所等の資産除去債務については、連結貸借対照表に計上しておりません。

(2) 当該資産除去債務の金額を連結貸借対照表に計上していない理由

退去の意思決定を行っていない店舗及び事務所等については、過去の使用実績、賃貸借契約等及び減価償却期間等から当該賃借資産の使用見込期間を合理的に算定できないことから、資産除去債務を計上しておりません。

(3) 当該資産除去債務の概要

店舗及び事務所の賃貸借契約等に基づく、退去時の原状回復に係る債務等であります。

(賃貸等不動産関係)

当社グループは東京都内において、賃貸収益を得ることを目的として賃貸マンション等を有しております。

これら賃貸等不動産に関する連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	3,832,779	3,785,959
期中増減額	46,819	46,819
期末残高	3,785,959	3,739,139
期末時価	3,782,563	3,882,371

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 期中増減額は、固定資産の減価償却によるものであります。

3. 期末時価は、主として社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価に基づく金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む)であります。

また、賃貸等不動産に関する損益は、次のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
賃貸収益	143,969	143,819
賃貸費用	76,897	80,810
差額	67,072	63,009
その他損益	-	-

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

当社グループは、飲食サービスの提供を主な事業として営んでおり、顧客からの注文に基づき料理を提供した時点で履行義務が充足されると判断しており、当該サービス提供時点で収益を認識しております。

また、一部の業態においては、衣料品、雑貨等の販売を行っております。このような物品の販売については、物品を引渡した時点で履行義務が充足されると判断しており、当該物品の引渡時点で収益を認識しております。

なお、他社が運営するカスタマー・ロイヤリティ・プログラムに係るポイント負担金について、ポイント負担金を除いた金額で収益を認識する方法を採用しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、主にレストラン事業を運営しており、日本、北米(カリフォルニア、ハワイ等)、ミクロネシア及びアジアの各地域に展開しております。各地域の消費動向、物価等の経済的特性を勘案して、各地域の包括的な戦略を立案し、事業活動を行っております。また欧州での事業展開のため、WDI UK Ltd.を2019年に設立していることから、日本、北米、ミクロネシア、欧州及びアジアの5つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントでは、レストラン事業及びその他の事業を実施しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成のために採用している会計処理の方法と同一であります。

報告セグメントの利益は営業利益又は営業損失ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は予め定めた合理的な価額に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債、その他の金額に関する情報及び収益の分解情報  
前連結会計年度（自2024年4月1日 至2025年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント					合計
	日本	北米	ミクロネシア	欧州	アジア	
売上高						
一時点で移転される財 又はサービス	23,123,872	7,058,175	1,282,999	-	239,638	31,704,686
一定の期間にわたり移転 される財又はサービス	76,783	-	-	-	-	76,783
顧客との契約から生じる 収益	23,200,656	7,058,175	1,282,999	-	239,638	31,781,470
その他の収益	171,323	-	-	-	-	171,323
外部顧客への売上高	23,371,980	7,058,175	1,282,999	-	239,638	31,952,794
セグメント間の内部 売上高又は振替高	70,951	17,297	-	-	-	88,248
計	23,442,932	7,075,472	1,282,999	-	239,638	32,041,043
セグメント利益又は損失 ( )	1,864,711	542,888	55,806	35,388	44,653	1,297,587
セグメント資産	15,614,063	6,013,321	2,929,665	171,131	699,376	25,427,558
セグメント負債	9,187,815	10,225,980	259,495	5,078	212,002	19,890,371
その他の項目						
減価償却費	495,808	238,147	7,140	91	23,298	764,487
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	770,784	403,320	9,391	274	166,525	1,350,296

（注）1. その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」に基づく賃貸収入等であります。

2. 有形固定資産及び無形固定資産の増加額には使用権資産にかかる金額を含めております。

当連結会計年度（自2025年4月1日 至2026年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント					合計
	日本	北米	ミクロネシア	欧州	アジア	
売上高						
一時点で移転される財 又はサービス	26,109,614	6,600,550	1,212,848	-	346,293	34,269,307
一定の期間にわたり移転 される財又はサービス	77,676	-	-	-	-	77,676
顧客との契約から生じる 収益	26,187,291	6,600,550	1,212,848	-	346,293	34,346,984
その他の収益	171,256	-	-	-	-	171,256
外部顧客への売上高	26,358,548	6,600,550	1,212,848	-	346,293	34,518,241
セグメント間の内部 売上高又は振替高	69,120	18,086	-	-	-	87,206
計	26,427,668	6,618,637	1,212,848	-	346,293	34,605,448
セグメント利益又は損失 ( )	2,186,980	287,273	47,610	62,119	27,246	1,857,951
セグメント資産	18,751,749	5,166,948	2,869,538	1,107,518	565,561	28,461,316
セグメント負債	11,004,346	10,467,447	170,043	476,116	152,265	22,270,220
その他の項目						
減価償却費	581,138	130,379	8,471	100	43,796	763,885
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,679,634	48,140	14,807	497,411	2,172	2,242,166

（注）1．その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」に基づく賃貸収入等であります。

2．有形固定資産及び無形固定資産の増加額には使用権資産にかかる金額を含めております。

4．報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	32,041,043	34,605,448
セグメント間取引消去	88,248	87,206
連結財務諸表の売上高	31,952,794	34,518,241

（単位：千円）

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	1,297,587	1,857,951
全社費用（注）	548,339	585,091
その他の調整額	-	-
連結財務諸表の営業利益	749,248	1,272,860

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務・経理部門等の管理部門に係る費用であります。

(単位：千円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	25,427,558	28,461,316
セグメント間消去	5,690,326	6,977,474
配分していない全社資産(注)	2,812,562	2,501,881
連結財務諸表の資産合計	22,549,794	23,985,723

(注) 全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務・経理部門等の管理部門に係る資産であります。

(単位：千円)

負債	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	19,890,371	22,270,220
セグメント間消去	5,450,380	6,221,328
連結財務諸表の負債合計	14,439,991	16,048,891

(単位：千円)

その他の項目	報告セグメント計		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	764,487	763,885	11,527	22,824	776,014	786,710
有形固定資産及び無形固定資産の増加額(注)	1,350,296	2,242,166	13,865	261,613	1,364,161	2,503,780

(注) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額には使用権資産にかかる金額を含めております。

#### 【関連情報】

前連結会計年度(自2024年4月1日 至2025年3月31日)

##### 1. 製品及びサービスごとの情報

単一のサービス区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

##### 2. 地域ごとの情報

###### (1) 売上高

(単位：千円)

日本	米国	その他	計
23,371,980	8,341,175	239,638	31,952,794

(注) 売上高は店舗の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

###### (2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	米国	その他	計
6,154,799	4,969,116	386,213	11,510,128

(注) 有形固定資産には使用権資産にかかる金額を含めております。

##### 3. 主要な顧客ごとの情報

連結損益計算書の売上高の10%以上を占める顧客が存在しないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自2025年4月1日 至2026年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

単一のサービス区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	米国	その他	計
26,358,548	7,813,399	346,293	34,518,241

(注) 売上高は店舗の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	米国	その他	計
7,254,721	3,526,028	775,605	11,556,355

(注) 有形固定資産には使用权資産にかかる金額を含めております。

3. 主要な顧客ごとの情報

連結損益計算書の売上高の10%以上を占める顧客が存在しないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自2024年4月1日 至2025年3月31日）

(単位：千円)

	日本	北米	ミクロネシア	欧州	アジア	全社・消去	計
減損損失	121,131	592,765	23,112	-	-	-	737,009

当連結会計年度（自2025年4月1日 至2026年3月31日）

(単位：千円)

	日本	北米	ミクロネシア	欧州	アジア	全社・消去	計
減損損失	261,784	680,120	-	-	32,433	-	974,339

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自2024年4月1日 至2025年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自2025年4月1日 至2026年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自2024年4月1日 至2025年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自2025年4月1日 至2026年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

前連結会計年度（自2024年4月1日 至2025年3月31日）  
該当事項はありません。

当連結会計年度（自2025年4月1日 至2026年3月31日）  
該当事項はありません。

（1株当たり情報）

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
1株当たり純資産額	1,027.54円	1,048.11円
1株当たり当期純利益	148.77円	37.67円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	930,006	235,882
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	930,006	235,882
普通株式の期中平均株式数(株)	6,251,137	6,262,147

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度末 (2025年3月31日)	当連結会計年度末 (2026年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	8,109,802	7,936,831
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	1,682,932	1,369,894
(うち非支配株主持分(千円))	(1,682,932)	(1,369,894)
普通株式に係る純資産額(千円)	6,426,870	6,566,937
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(株)	6,254,634	6,265,490

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定の長期借入金	745,677	1,261,794	1.34	-
1年以内に返済予定のリース債務	655,743	521,355	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	4,310,072	4,798,279	1.37	2027年～2031年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	3,665,487	3,354,224	-	2027年～2040年
計	9,376,980	9,935,653	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。
3. 主に米国会計基準を採用している在外連結子会社において、ASC Topic842「リース」を適用しており、「1年以内に返済予定のリース債務」及び「リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)」の残高には、当該会計基準を適用した金額が含まれております。
4. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内
長期借入金	1,223,644	1,048,644	920,644	270,856
リース債務	438,864	414,784	407,793	295,097

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により作成を省略しております。

(2)【その他】

当連結会計年度における半期情報等

(累計期間)	第1四半期	中間連結会計期間	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	8,167,517	16,199,519	25,549,020	34,518,241
税金等調整前中間(当期) (四半期)純利益(は損失) (千円)	164,127	369,349	414,279	787,659
親会社株主に帰属する中間 (当期)(四半期)純利益 (は損失)(千円)	46,138	277,575	84,417	235,882
1株当たり中間(当期) (四半期)純利益(は損失) (円)	7.38	44.35	13.48	37.67

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益 (は損失)(円)	7.38	51.69	57.78	24.17

(注) 当社は、第1四半期及び第3四半期について金融商品取引所の定める規則により四半期に係る財務情報を作成しておりますが、当該四半期に係る財務情報に対する期中レビューは受けておりません。

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,314,267	1,761,271
売掛金	1 365,772	1 421,579
棚卸資産	1,971	1,068
前払費用	17,667	14,668
未収入金	1 10,040	1 10,907
1年内回収予定の関係会社長期貸付金	300,000	635,000
流動資産合計	3,009,718	2,844,496
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,463,355	1,463,355
減価償却累計額	167,714	214,534
建物(純額)	2 1,295,641	2 1,248,821
車両運搬具	13,149	13,149
減価償却累計額	490	4,706
車両運搬具(純額)	12,658	8,443
工具、器具及び備品	3,146	3,146
減価償却累計額	3,024	3,094
工具、器具及び備品(純額)	2 121	2 51
土地	2 2,490,358	2 2,490,358
有形固定資産合計	3,798,779	3,747,674
無形固定資産		
借地権	2 48,000	2 48,000
商標権	1,934	1,509
無形固定資産合計	49,934	49,509
投資その他の資産		
関係会社株式	540,074	1,056,274
関係会社長期貸付金	1,944,609	3,154,898
長期前払費用	48,542	44,117
敷金及び保証金	320	650
投資有価証券	165,000	143,330
貸倒引当金	919,929	1,282,718
投資その他の資産合計	1,778,616	3,116,551
固定資産合計	5,627,330	6,913,735
資産合計	8,637,048	9,758,231

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
関係会社短期借入金	139,994	-
1年内返済予定の長期借入金	2,459,700	2,909,700
未払金	1,14,236	1,15,705
未払法人税等	220,141	70,438
未払消費税等	4,871	10,141
賞与引当金	2,546	2,237
その他	5,130	5,025
流動負債合計	846,619	1,013,248
固定負債		
預り保証金	6,140	5,736
繰延税金負債	1,095,583	1,088,530
長期借入金	2,2,757,991	2,3,735,791
固定負債合計	3,859,714	4,830,057
負債合計	4,706,334	5,843,306
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金		
資本準備金	588,655	588,655
その他資本剰余金	552,234	560,229
資本剰余金合計	1,140,890	1,148,885
利益剰余金		
利益準備金	12,418	12,418
その他利益剰余金		
圧縮積立金	1,936,220	1,911,968
繰越利益剰余金	858,913	849,025
利益剰余金合計	2,807,552	2,773,412
自己株式	173,622	149,273
株主資本合計	3,824,820	3,823,024
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	105,894	91,901
評価・換算差額等合計	105,894	91,901
純資産合計	3,930,714	3,914,925
負債純資産合計	8,637,048	9,758,231

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
売上高		
子会社経営指導料収入	1 326,585	1 374,931
その他	1 371,323	1 471,256
売上高合計	697,909	846,188
売上原価		
その他収入原価	2 46,819	2 46,819
売上原価合計	46,819	46,819
売上総利益	651,089	799,368
販売費及び一般管理費	1, 3 461,217	1, 3 458,723
営業利益	189,872	340,645
営業外収益		
受取利息	1 108,581	1 142,252
為替差益	-	89,969
その他	224	3
営業外収益合計	108,806	232,225
営業外費用		
為替差損	22,992	-
支払利息	34,668	63,457
その他	2,927	2,980
営業外費用合計	60,587	66,438
経常利益	238,091	506,433
特別利益		
固定資産売却益	4 2,256	-
投資有価証券売却益	5 638,752	-
特別利益合計	641,008	-
特別損失		
貸倒引当金繰入額	6 567,767	6 362,788
特別損失合計	567,767	362,788
税引前当期純利益	311,333	143,644
法人税、住民税及び事業税	261,381	70,830
法人税等調整額	1,072	625
法人税等合計	260,308	71,455
当期純利益	51,024	72,188

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

(単位：千円)

	株 主 資 本							
	資 本 金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金			
		資 本 金	そ の 他 本 金	資 剰 余 金	利 益 剰 余 金	そ の 他 利 益 剰 余 金		利 剰 余 金 計
	資 本 金	資 本 金	そ の 他 本 金	資 剰 余 金	利 益 剰 余 金	圧 縮 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金	利 剰 余 金 計
当期首残高	50,000	588,655	541,032	1,129,687	12,418	1,985,366	852,390	2,850,176
当期変動額								
剰余金の配当	-	-	-	-	-	-	93,647	93,647
当期純利益	-	-	-	-	-	-	51,024	51,024
自己株式の取得	-	-	-	-	-	-	-	-
自己株式の処分	-	-	11,202	11,202	-	-	-	-
圧縮積立金の取崩	-	-	-	-	-	49,146	49,146	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	-	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	11,202	11,202	-	49,146	6,523	42,623
当期末残高	50,000	588,655	552,234	1,140,890	12,418	1,936,220	858,913	2,807,552

	株 主 資 本		評 価 ・ 換 算 差 額 等		純 資 産 計
	自 己 株 式	株 主 資 本 計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	評 価 ・ 換 算 差 額 等 計	
当期首残高	199,309	3,830,554	-	-	3,830,554
当期変動額					
剰余金の配当	-	93,647	-	-	93,647
当期純利益	-	51,024	-	-	51,024
自己株式の取得	141	141	-	-	141
自己株式の処分	25,827	37,030	-	-	37,030
圧縮積立金の取崩	-	-	-	-	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	-	105,894	105,894	105,894
当期変動額合計	25,686	5,734	105,894	105,894	100,159
当期末残高	173,622	3,824,820	105,894	105,894	3,930,714

当事業年度（自 2025年4月1日 至 2026年3月31日）

(単位：千円)

	株 主 資 本							
	資 本 金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金			
		資 本 金 準 備 金	そ の 他 資 剰 余 本 金	資 剰 余 本 金 計	利 益 準 備 金	そ の 他 利 益 剰 余 金		利 剰 余 金 計
		圧 縮 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金		圧 縮 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金		
当期首残高	50,000	588,655	552,234	1,140,890	12,418	1,936,220	858,913	2,807,552
当期変動額								
剰余金の配当	-	-	-	-	-	-	106,328	106,328
当期純利益	-	-	-	-	-	-	72,188	72,188
自己株式の取得	-	-	-	-	-	-	-	-
自己株式の処分	-	-	7,995	7,995	-	-	-	-
圧縮積立金の取崩	-	-	-	-	-	24,251	24,251	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	-	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	7,995	7,995	-	24,251	9,888	34,140
当期末残高	50,000	588,655	560,229	1,148,885	12,418	1,911,968	849,025	2,773,412

	株 主 資 本		評 価 ・ 換 算 差 額 等		純 資 産 計
	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	
当期首残高	173,622	3,824,820	105,894	105,894	3,930,714
当期変動額					
剰余金の配当	-	106,328	-	-	106,328
当期純利益	-	72,188	-	-	72,188
自己株式の取得	137	137	-	-	137
自己株式の処分	24,486	32,482	-	-	32,482
圧縮積立金の取崩	-	-	-	-	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	-	13,992	13,992	13,992
当期変動額合計	24,348	1,796	13,992	13,992	15,788
当期末残高	149,273	3,823,024	91,901	91,901	3,914,925

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの・・・時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株式等・・・・・・・・・・移動平均法による原価法を採用しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

建物は定額法を、車両運搬具及び工具、器具及び備品については定率法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物・・・・・・・・・・9～46年

車両運搬具・・・・・・・・・・6年

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当期負担分を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

当社の主な収益は、子会社からの経営指導料、不動産賃貸収入、受取配当金となります。

経営指導にかかる契約については、当社の子会社に対し指導・助言等を行うことを履行義務として識別しております。当該履行義務は、業務が実施された時点で当社の履行義務が充足されることから、当該時点で収益を認識しております。

不動産賃貸収入については、「リース取引に関する会計基準」等を適用し、賃貸期間に応じて収益を認識しております。

受取配当金については、配当金の効力発生日をもって認識しております。

5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、当事業年度末の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(重要な会計上の見積り)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(貸借対照表関係)

1 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
流動資産		
売掛金	365,772千円	421,579千円
未収入金	7,507	8,390
流動負債		
未払金	7,054	5,503

2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
建物	1,263,502千円	1,218,579千円
工具、器具及び備品	0	0
土地	2,258,567	2,258,567
借地権	48,000	48,000
計	3,570,070	3,525,147

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
1年内返済予定の長期借入金	359,700千円	459,700千円
長期借入金	1,580,300	1,480,300
計	1,940,000	1,940,000

3 偶発債務

2009年12月1日付の会社分割により株式会社W D I JAPANが承継した債務につき、重畳的債務引受を行っております。また、株式会社W D I JAPANの一部の金銭消費貸借契約及び売買契約に対して連帯保証を行っております。

重畳的債務及び連帯保証の額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
重畳的債務	414,166千円	223,336千円
連帯保証	118,697	122,082

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	526,585千円	674,931千円
営業費用	18,845	17,550
営業取引以外の取引による取引高		
営業外収益	107,352	137,825

2 その他収入原価は全て賃貸等不動産に係る減価償却費であります。

3 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度11%、当事業年度10%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度89%、当事業年度90%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
役員報酬	178,266千円	164,304千円
給与手当	39,670	46,783
賃借料	15,525	15,679
租税公課	6,638	8,700

4 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
車両運搬具	2,256千円	-千円
計	2,256	-

5 投資有価証券売却益

資産効率の向上を図るとともに、グループ事業の成長に向けた投資等の原資として活用するため、株式会社タイミーの投資有価証券を売却した売却益を「投資有価証券売却益」として特別利益に計上しております。

6 貸倒引当金繰入額

(前事業年度 自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

貸倒引当金繰入額567,767千円は、米国子会社への貸付金に対して貸倒見積高を算定して計上しております。

(当事業年度 自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

貸倒引当金繰入額362,788千円は、米国子会社への貸付金に対して貸倒見積高を算定して計上しております。

(有価証券関係)

関係会社株式

子会社株式は、市場価格のない株式等のため、子会社株式の時価を記載しておりません。

なお、市場価格のない株式等の子会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

区分	前事業年度 (千円)	当事業年度 (千円)
子会社株式	540,074	1,056,274

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業所税	41千円	210千円
未払事業税	20,122	6,887
賞与引当金	880	792
未払費用	9,813	11,962
貸倒引当金	318,191	454,461
投資有価証券評価損	1,864	1,910
減損損失	3,652	3,708
会社分割により取得した子会社株式	126,768	129,850
子会社株式評価損	21,040	21,552
その他	0	63
繰延税金資産小計	502,376	631,398
評価性引当額	480,878	623,349
繰延税金資産合計	21,497	8,048
繰延税金負債		
固定資産圧縮損	1,061,934	1,049,110
その他有価証券評価差額金	55,146	47,469
繰延税金負債合計	1,117,081	1,096,579
繰延税金資産の純額	1,095,583	1,088,530

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
法定実効税率	34.6%	34.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.0	1.2
受取配当金等永久に損益に算入されない項目	22.2	72.2
住民税均等割	0.6	1.3
評価性引当額	62.3	99.2
税額控除	0.3	2.3
税率差異	7.7	11.1
その他	0.1	1.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	83.6	49.7

## (収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「(重要な会計方針)4.収益及び費用の計上基準」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却 累計額
有形固定資産						
建物	1,295,641	-	-	46,819	1,248,821	214,534
車両運搬具	12,658	-	-	4,215	8,443	4,706
工具、器具及び備品	121	-	-	69	51	3,094
土地	2,490,358	-	-	-	2,490,358	-
有形固定資産計	3,798,779	-	-	51,105	3,747,674	222,335
無形固定資産						
借地権	48,000	-	-	-	48,000	-
商標権	1,934	261	-	686	1,509	14,372
無形固定資産計	49,934	261	-	686	49,509	14,372

【引当金明細表】

(単位：千円)

区 分	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	919,929	362,788	-	1,282,718
賞与引当金	2,546	2,237	2,546	2,237

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り  取扱場所  株主名簿管理人  取次所  買取手数料	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社  株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告とし、次の当社ウェブサイトに掲載します。 ( <a href="https://www.wdi.co.jp">https://www.wdi.co.jp</a> ) 但し、事故その他やむを得ない事由により、電子公告をすることができない時は、日本経済新聞に掲載します。
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有していません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第71期）（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）2025年6月26日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2025年6月26日関東財務局長に提出

(3) 半期報告書及び確認書

（第72期中）（自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）2025年11月14日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

2025年4月21日関東財務局に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号（提出会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象の発生）及び第19号（連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象の発生）に基づく臨時報告書であります。

2025年6月27日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

2025年8月21日関東財務局に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号（提出会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象の発生）及び第19号（連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象の発生）に基づく臨時報告書であります。

2025年10月22日関東財務局に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第19号（連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象の発生）に基づく臨時報告書であります。

2026年4月16日関東財務局に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号（提出会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象の発生）及び第19号（連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象の発生）に基づく臨時報告書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2026年6月25日

株式会社W D I

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	高橋 康之
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	山口 昌良

< 連結財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社W D Iの2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社W D I及び連結子会社の2026年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

店舗における固定資産の減損	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>会社は主としてレストラン事業を運営し、国内及び米国を中心とした海外に多数の店舗を展開している。会社の2026年3月31日現在の固定資産14,430,228千円には、国内及び海外の店舗における固定資産が含まれており、重要な割合を占めている。</p> <p>会社は、店舗ごとに資産のグルーピングを行っており、店舗における営業損益が継続してマイナスになるなど、減損の兆候がある店舗に関して、減損損失の認識の判定を行っている。</p> <p>減損損失の認識の判定により、当該資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回る場合には、使用価値又は正味売却価額のいずれか高い方の金額まで帳簿価額を減額し、当該減少額を減損損失として計上している。</p> <p>【注記事項】（重要な会計上の見積り）に記載のとおり、割引前将来キャッシュ・フローは正味売却価額又は使用価値により見積もられており、正味売却価額における指標等の決定方法や、使用価値における対象となる店舗の状況に応じた来客見込数を含む売上高の見通し、原材料価格や人件費の変動に係る見通しといった仮定が用いられている。</p> <p>このように割引前将来キャッシュ・フローの見積りは、将来事象の予測であることから不確実性を伴い、見積りに用いられている仮定は経営者による主観性が高いことから、当監査法人は、当該事項を監査上の主要な検討事項に該当するものと判断した。</p>	<p>当監査法人は、国内子会社及び米国以外の海外子会社が運営する店舗における固定資産の減損の検討に当たり、主に以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>固定資産の減損に係る会社の内部統制を理解した。</li> <li>各店舗の損益状況などに基づき実施される減損の兆候の検討プロセスを理解するとともに、減損の兆候のある店舗が適切に識別されていることを確かめた。</li> <li>減損の兆候を把握した場合には、減損損失の認識の判定に際して利用する割引前将来キャッシュ・フローが、取締役会等で承認された将来の事業計画を基礎として算定されていることを確かめた。</li> <li>過去の事業計画と実績との比較分析を行い、割引前将来キャッシュ・フローの見積りの精度を評価した。</li> <li>将来の事業計画の前提となる重要な仮定について、経営者などへの質問、店舗業績に関する過去実績からの趨勢分析、関連資料の閲覧等により合理的なものであるかどうか検討した。</li> </ul> <p>また、当監査法人は、米国子会社が運営する店舗における固定資産の減損の検討に当たり、主に以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>米国子会社の監査人に監査上の対応について指示するとともに、リスク評価及びリスク対応手続についてコミュニケーションを実施した。</li> <li>正味売却価額における指標等の決定方法に係る仮定については、米国子会社の監査人との協議や関連資料の閲覧等により適切性を評価した。</li> <li>米国子会社の監査人から監査手続の実施結果について報告を受け、当該内容について評価した。</li> </ul>

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

## 連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、連結財務諸表の監査を計画し実施する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

## < 内部統制監査 >

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社W D Iの2026年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、株式会社W D Iが2026年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

## 内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、内部統制の監査を計画し実施する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

## <報酬関連情報>

当監査法人及び当監査法人と同一のネットワークに属する者に対する、会社及び子会社の監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬の額は、「提出会社の状況」に含まれるコーポレート・ガバナンスの状況等（３）【監査の状況】に記載されている。

## 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

( ) 1 . 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2026年6月25日

株式会社W D I

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	高橋 康之
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	山口 昌良

<財務諸表監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社W D Iの2025年4月1日から2026年3月31日までの第72期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社W D Iの2026年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。当監査法人は、監査報告書において報告すべき監査上の主要な検討事項はないと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

#### < 報酬関連情報 >

報酬関連情報は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- ( ) 1 . 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。